

## 泉崎村まち・ひと・しごと創生総合戦略 PDCAサイクル 進捗管理シート

平成 30 年度分		担当課	事業課産業係
基本目標	1 ひとを育む		
施策の枠組み	(1) 結婚・出産・子育てへの切れ目のない支援		
具体的施策	① 非婚化・晩婚化対策		
事業名	婚活イベント企画事業		
事業概要	最終予算額 100 千円	決算額	100 千円
	他市町村との連携や、スポーツ等を絡めた独自の婚活イベントの企画等により、若い世代を中心とした結婚希望者の出会いの場の創出に努めます。		

計画 (P) ↓ 実施 (D)	目標事項・進捗状況	目標事項	婚活イベント実施回数 (参加者数)						
		KPI	3回20人 (令和元年度)						
		数値	現状値	27年度	28年度	29年度	30年度	R1年度	備考
			—	3回10人	4回8人	2回4人	4回4人		
		達成率	—	50%	40%	20%	20%		
		目標事項							
		KPI							
		数値	現状値	27年度	28年度	29年度	30年度	R1年度	備考
		達成率							

平成 30 年度	評価 (C)	30年度評価	
		担当課 評価	県南 9 市町村で連携し、ふれあいの場創出事業として婚活イベント「出逢い&ふれあいの会」を 4 回実施。泉崎村からの参加者は計 4 名で全員男性だった。女性の参加者が少ないため、村内企業訪問を行うことでイベントの告知を行っている。
	改善 (A)	令和元年度における取り組みなど	
		ホームページへの掲載や、地元商店へのポスター掲示を行ったが参加者数が増えなかった。今後は広報での全戸配布も検討する。また、村内企業訪問も継続して行う。	
	委員会意見	評価等に対する意見	
		委員会 評価	総合戦略の KPI 達成に有効であった。
	C		

- A：目標以上に進捗しており、このまま継続して事業を推進する。  
 B：ほぼ目標どおりに進捗しており、継続して事業を推進する。  
 C：目標をやや下回っており、要因の分析を要する。  
 D：目標を大きく下回っており、要因の分析と目標値の見直しを要する。  
 E：目標値または事業自体の抜本的見直しを要する。

泉崎村まち・ひと・しごと創生総合戦略 PDCAサイクル 進捗管理シート

平成 30 年度分	担当課	住民福祉課福祉係
基本目標	1 ひとを育む	
施策の枠組み	(1) 結婚・出産・子育てへの切れ目のない支援	
具体的施策	②子育て環境の整備	
事業名	幼児定期検診事業	
事業概要	最終予算額	467千円
	決算額	449千円
子どもの健診を実施することにより、身体発育、精神発達等の異常の有無を早期に発見し、適切な指導を行うとともに、母親に対して育児不安を除き、安心して育児ができるよう支援する。		

計画 (P) ↓ 実施 (D)	目標事項・進捗状況	目標事項	幼児定期健診受診率					
		KPI	98% (令和元年度)					
		現状値	27年度	28年度	29年度	30年度	R1年度	備考
		数値	—	94.7%	99.2%	100%	98.9%	
		達成率	—	97%	101%	102%	101%	
		目標事項						
		KPI						
		現状値	27年度	28年度	29年度	30年度	R1年度	備考
		数値						
		達成率						

平成 30 年度	評価 (C)	30年度評価	
		担当課 評価	1歳6か月児健診対象者33名、受診者33名(100%)、3歳児健診対象者58名、受診者57名(98.3%)。未受診者は3歳児健診1名で、次回の健診時に受診勧奨予定。
		A	
	改善 (A)	令和元年度における取り組みなど	
		順調に推移しているため、継続して事業を実施していく。	
	委員会 意見	評価等に対する意見	
委員会 評価		総合戦略のKPI達成に有効であった。	
A			

- A：目標以上に進捗しており、このまま継続して事業を推進する。  
 B：ほぼ目標どおりに進捗しており、継続して事業を推進する。  
 C：目標をやや下回っており、要因の分析を要する。  
 D：目標を大きく下回っており、要因の分析と目標値の見直しを要する。  
 E：目標値または事業自体の抜本的見直しを要する。

泉崎村まち・ひと・しごと創生総合戦略 PDCAサイクル 進捗管理シート

平成 30 年度分		担当課	教育課学校教育係
基本目標	1 ひとを育む		
施策の枠組み	(1) 結婚・出産・子育てへの切れ目のない支援		
具体的施策	③学習・教育の場の充実		
事業名	基礎学力向上推進事業等		
事業概要	最終予算額	62,750 千円	決算額 51,385 千円
	<b>I 【村採用講師及び支援員の加配】</b> ■37,368 千円 (1小 14,708 千円、2小 10,073 千円、中 12,587 千円) ■29,444 千円 (1小 11,969 千円、2小 9,544 千円、中 7,931 千円) ◎学力向上及び特別な支援を要する児童生徒へ特別支援教育推進体制の目標を達成するため教育支援員を配置。		
	<b>II 【外国青年招致事業 JET プログラム】</b> ■9,316 千円 (賃金 7,320 千円、社保 1,062 千円、役務 110 千円、賃借 680 千円、負担金 144 千円) ■8,856 千円 (賃金 6,856 千円、社保 996 千円、役務 80 千円、賃借 680 千円、負担金 144 千円) ◎英語教育の推進のため外国青年を招致し小・中学校計 2 名を配置。 一小・幼稚園・公民館【ソマーズ・クリスティーナ】 二小・中学・公民館【サラ・ボーゲン→ゼブゴリス・パトリシア・ハナエ】		
	<b>III 【学力向上推進委員会】</b> ■706 千円 (報償費 300 千円、研修旅費 178 千円、需用費 228 千円) ■198 千円 (報償費 118 千円、研修旅費 9 千円、需用費 71 千円) ◎学力向上推進会議を中心とした年 3 回の共同授業研究【指導助言に教育センター及び有識者を招聘】により授業力の向上、教員の資質能力・自己研鑽を促すもの。		
	<b>IV 【村学力調査】</b> ■542 千円 ■464 千円 ◎標準学力検査 CRT / 目標基準準拠検査の実施【2 月小・中学生】		
	<b>V 【泉崎中放課後学習・土曜学習 プチスクール (講師派遣事業)】</b> ■13,499 千円 ■11,926 千円 ◎中学校の放課後学習【数学・英語】は、県内の進学塾講師及び村内学習塾講師にて業務委託。なお、習熟度別学習を設け、きめ細やかな学習内容として実施。土曜学習 プチスクールにおいても、発展コースと基礎コースに分けて児童の特性に応じた学習を実施。		
	<b>VI 【泉崎村英語検定・数学検定・漢字検定 検定料助成事業】</b> ■1,319 千円 ■497 千円 合格率は数英検とも約 9 割合格を示唆。なお、令和元年 6 月、泉崎村英語検定・数学検定 検定料助成金交付要綱 (平成 29 年泉崎村教育委員会訓令第 9 号) の一部改正により公益財団法人日本漢字能力検定協会による日本漢字能力検定の助成追加。		
	<小学生> プチスクール土曜学習: 小学 5 年・6 年、発展コース (算数・英語)、個別コース (国数理社)。(個別指導コース) 個々の学習状態に応じた手厚い指導。基礎をしっかりと学ぶ。小学校個別指導コースは、寺子屋をイメージした先生と生徒が近い距離で話し合い、分からないことをひとつひとつ丁寧に教えてもらえる雰囲気となる環境設定とした。個別は一斉教授の授業形態とは違うので質問しやすい (分からないことを聞きやすい) という嬉しい声が聞かれている。 (発展コース) 英語は英検 4 級以上 (英単語・文構造)。算数については小学校教育課程では学習の範疇にない、いわゆる算数的思考の問題にチャレンジ。幅広いアイデアで問題を解決する数学的センスを磨く学習です。		
	<中学生> プチスクール土曜学習 ○プチスクール土曜学習会 小学生 5 年・6 年 / 発展コース (英語・算数)、個別コース (国数理社) 中学校放課後学習会 1 年～3 年 (数学・英語)		

○中学校放課後学習  
 受験コース 3年／習熟度別（数学・英語）  
 1年・2年／習熟度別（数学・英語）※理・社はすべて本務校教職員  
 ※講師は、ベスト学院、数学塾、村加配講師による  
 中学校の放課後学習【数学英語】他の教科は本務者にて実施。なお、平成29年度より3年生に導入していた習熟度別学習を1年2年にも設け、きめ細やかな学習内容とした

<小中共通>  
 泉崎村英語検定・数学検定・漢字検定 検定料助成事業

**英語検定について**  
 現：高校2年生より大学入試は民間テスト（英検等）が導入され、現中学1年生は共通テスト（英語）が民間テストに（英検等）完全代替されます。  
 また、第3期教育振興基本計画（文部科学省）『社会の持続的な発展を牽引するための多様な力を育成する』は、中学卒業段階でCEFR<sup>82</sup>-A1以上、高校卒業段階でCEFR-A2以上の割合を50パーセント、高校留学（6万人）、大学留学（12万人）、大学留学生受け入れ30万人万人その後国内就職50パーセントを目指すとして決定されました。  
 次に、小学校学習指導要領（平成29年告示）解説 外国語活動・外国語編、第2章外国語科の目標及び内容 抜粋 【小学校の外国語活動及び外国語科で指導する語数の下限を、「700語」とは指導で取り扱う一定の目安となる語数を示したものであり、700語程度を上限とするという趣旨ではない。また、小学校中学年の外国語活動から中学校の外国語科までの間に指導した内容を、中学校の外国語科の言語活動において繰り返し活用することによって、生徒が自分の考えなどを表現する際に、話したり書いたりして表現できるような段階まで確実に定着させることが重要である。こうして、各学校段階を通じて習得させていく過程が重要です。  
 これらのことから、英語検定の奨励により、小中学生の多様な力の育成の指標及び学校教育の充実に寄与するものです。

**数学検定について**  
 全国学力学習状況調査（以下、全国テスト）の問題がA（基礎）B（思考発展）がB問題に統合されます。特に『学習の転移』が問われる内容となります。また、全国テストは福島県立高校入試問題に大きく影響していることから、現在高校入試の問題は基礎問題が175点（250点満点）の配分バランスが変わる可能性があります。これらの対策として適当なのが、数学検定の2次問題となっています。また、同検定は記述式の問題であるため、共通テストや入試問題への対応とも一致しております。

**漢字検定について**  
 令和元年6月、泉崎村英語検定・数学検定 検定料助成金交付要綱（平成29年泉崎村教育委員会訓令第9号）の一部改正により公益財団法人日本漢字能力検定協会による日本漢字能力検定を追加。「漢検（日本漢字能力検定）」は、漢字能力を測定する技能検定。漢字を「読む」「書く」という知識量のみならず、漢字の意味を理解し、文章の中で適切に使える能力も測ります。「漢検」の評価は社会的な評価でもあり、学んだことがすぐ生き、生涯楽しく学べ、進学や就職にも役立つため教育や企業の現場で今注目を集めている検定です。

計画（P） ↓ 実施（D）	目標事項・進捗状況	目標事項	学力向上（学習・教育の充実）						
		KPI	高校入試（志望校）、全国学力学習状況調査、CRT調査、検定試験合格						
		数 値	現状値	27年度	28年度	29年度	30年度	R1年度	備考
			—	ブチスクール47回、放課後学習18回、志望校概ね	ブチスクール47回、放課後学習18回、志望校概ね	○土曜学習47回 ○放課後学習3年20回/1・2年10回 志望校期間内最高、検定試験約9割合格	○土曜学習47回 ○放課後学習3年20回/1・2年10回 志望校概ね合格、検定試験約9割合格		
		達成率	—	92%	92%	98%	92%		
		目標事項							
		KPI							
		数 値	現状値						
			—						
		達成率	—						

令和元年度	評価 (C)	平成30年度評価			
		<table border="1"> <tr> <td>担当課 評 価</td> <td> <p>○実績：全国学力学習状況調査（小6,中3）概ね全国平均及び県平均を上回った。（※【標準スコア】 標準スコアは、全国値の正答率を50としたときの換算値）下記は村学力向上推進委員会の標準学力調査 【取扱注意】</p> <p>CRT 中1【国 52.4】【社 51.1】【数 52.3】【理 54.1】【英 54.0】</p> <p>CRT 中2【国 51.7】【社 51.3】【数 52.4】【理 52.6】【英 52.2】</p> <p>CRT 小1【国 54.6】【数 55.6】小2【国 53.3】【数 52.9】小3【国 50.2】【数 48.8】小4【国 50.8】【数 51.0】小5【国 49.6】【数 47.8】CRT 小6【国 51.8】【数 53.8】</p> <p>○ニーズ：社会において自立的に生きるために必要な「生きる力」※1を育むという人間本来の能力育成は保護者のみならず地域全体の子どもたちに培うべき喫緊の課題であり共通の認識となっている。これらを具現化するために学校のみならず『社会総掛かりでの教育の実現する』という社会の流れ。※1 3つの柱：①生きて働く「知識・技能」の習得。②未知の状況にも対応できる「思考力・判断力・表現力等」の育成。③学びを人生や社会に生かそうとする「学びに向かう力・人間性」の涵養。【学習指導要領】</p> <p>○課題：課題は、フチスクール土曜学習の中学1年2年生で部活動の兼ね合い。学力の2極化傾向、運動部の参加が低く『運動で高校へ行く』と言った声も聞かれている。しかし、現中学3年より新制度の高校選抜試験【県立高等学校改革計画前期実施計画、「令和2年度福島県立高等学校入学者選抜実施要綱】となります。また、点数のみならず学力の内容【新しい時代に必要となる資質・能力の育成】①何を知っているか、何ができるか（個別の知識・技能）②知っていること・できることをどう使うか（思考力・判断力・表現力等）③どのように社会・世界と関わり、よりよい人生を送るか（人間性や学びに向かう力）以上が問われております。今後は、児童・生徒のみならず保護者及び地域の皆さまにも情報発信を行い確かな学力と社会に開かれた教育課程の実現を進めて行く必要があります。</p> </td> </tr> </table>	担当課 評 価	<p>○実績：全国学力学習状況調査（小6,中3）概ね全国平均及び県平均を上回った。（※【標準スコア】 標準スコアは、全国値の正答率を50としたときの換算値）下記は村学力向上推進委員会の標準学力調査 【取扱注意】</p> <p>CRT 中1【国 52.4】【社 51.1】【数 52.3】【理 54.1】【英 54.0】</p> <p>CRT 中2【国 51.7】【社 51.3】【数 52.4】【理 52.6】【英 52.2】</p> <p>CRT 小1【国 54.6】【数 55.6】小2【国 53.3】【数 52.9】小3【国 50.2】【数 48.8】小4【国 50.8】【数 51.0】小5【国 49.6】【数 47.8】CRT 小6【国 51.8】【数 53.8】</p> <p>○ニーズ：社会において自立的に生きるために必要な「生きる力」※1を育むという人間本来の能力育成は保護者のみならず地域全体の子どもたちに培うべき喫緊の課題であり共通の認識となっている。これらを具現化するために学校のみならず『社会総掛かりでの教育の実現する』という社会の流れ。※1 3つの柱：①生きて働く「知識・技能」の習得。②未知の状況にも対応できる「思考力・判断力・表現力等」の育成。③学びを人生や社会に生かそうとする「学びに向かう力・人間性」の涵養。【学習指導要領】</p> <p>○課題：課題は、フチスクール土曜学習の中学1年2年生で部活動の兼ね合い。学力の2極化傾向、運動部の参加が低く『運動で高校へ行く』と言った声も聞かれている。しかし、現中学3年より新制度の高校選抜試験【県立高等学校改革計画前期実施計画、「令和2年度福島県立高等学校入学者選抜実施要綱】となります。また、点数のみならず学力の内容【新しい時代に必要となる資質・能力の育成】①何を知っているか、何ができるか（個別の知識・技能）②知っていること・できることをどう使うか（思考力・判断力・表現力等）③どのように社会・世界と関わり、よりよい人生を送るか（人間性や学びに向かう力）以上が問われております。今後は、児童・生徒のみならず保護者及び地域の皆さまにも情報発信を行い確かな学力と社会に開かれた教育課程の実現を進めて行く必要があります。</p>	
	担当課 評 価	<p>○実績：全国学力学習状況調査（小6,中3）概ね全国平均及び県平均を上回った。（※【標準スコア】 標準スコアは、全国値の正答率を50としたときの換算値）下記は村学力向上推進委員会の標準学力調査 【取扱注意】</p> <p>CRT 中1【国 52.4】【社 51.1】【数 52.3】【理 54.1】【英 54.0】</p> <p>CRT 中2【国 51.7】【社 51.3】【数 52.4】【理 52.6】【英 52.2】</p> <p>CRT 小1【国 54.6】【数 55.6】小2【国 53.3】【数 52.9】小3【国 50.2】【数 48.8】小4【国 50.8】【数 51.0】小5【国 49.6】【数 47.8】CRT 小6【国 51.8】【数 53.8】</p> <p>○ニーズ：社会において自立的に生きるために必要な「生きる力」※1を育むという人間本来の能力育成は保護者のみならず地域全体の子どもたちに培うべき喫緊の課題であり共通の認識となっている。これらを具現化するために学校のみならず『社会総掛かりでの教育の実現する』という社会の流れ。※1 3つの柱：①生きて働く「知識・技能」の習得。②未知の状況にも対応できる「思考力・判断力・表現力等」の育成。③学びを人生や社会に生かそうとする「学びに向かう力・人間性」の涵養。【学習指導要領】</p> <p>○課題：課題は、フチスクール土曜学習の中学1年2年生で部活動の兼ね合い。学力の2極化傾向、運動部の参加が低く『運動で高校へ行く』と言った声も聞かれている。しかし、現中学3年より新制度の高校選抜試験【県立高等学校改革計画前期実施計画、「令和2年度福島県立高等学校入学者選抜実施要綱】となります。また、点数のみならず学力の内容【新しい時代に必要となる資質・能力の育成】①何を知っているか、何ができるか（個別の知識・技能）②知っていること・できることをどう使うか（思考力・判断力・表現力等）③どのように社会・世界と関わり、よりよい人生を送るか（人間性や学びに向かう力）以上が問われております。今後は、児童・生徒のみならず保護者及び地域の皆さまにも情報発信を行い確かな学力と社会に開かれた教育課程の実現を進めて行く必要があります。</p>			
	改善 (A)	<p>令和元年度における取り組みなど</p> <p>フチスクール土曜学習は小学生コースを2コース設け（発展と基礎）、それぞれの目的に応じたきめ細かな学習を実施したため、個に応じた対応ができ年間を通して高い参加率になりました。また、後期（2月・3月）に実施する英検・数検への対策特講を設け現在進捗中です。泉崎中【肥満度対策事業】（ザキ・タイム）の関係から中学校放課後学習会は三年生の受験コースに特化しました。講師派遣は3年生の習熟度AコースからCコースとし、1年2年については学年教員にて実施。放課後学習は、学習内容及び出題問題など入試傾向に対応した授業とし、早い段階で志望校を意識させ、志望校に必要な学習内容・学習量を生徒個人にきちんと自覚させる働きかけに留意して進めております。</p> <p>なお、課題は前述のとおり、フチスクール土曜学習の中学1年2年生で部活動の兼ね合いもありますが、参加申込も少なく受験までの期間が長いことから危機感を持った生徒が少なく学力対策を実施する生徒と未実施の生徒間での差が顕著となってきている。また、現中学2年より新制度の高校入試は特色選抜と一般選抜においては、点数のみならず学力の内容が問われます。</p> <p>今後は、児童・生徒のみならず保護者及び地域の皆さまにも情報発信を行い確かな学力と社会に開かれた教育課程の実現を進めて行くことが喫緊の課題です。</p>			
委員会意見	<p>評価等に対する意見</p> <table border="1"> <tr> <td>委員会 評 価</td> <td>総合戦略のKPI達成に有効であった。</td> </tr> <tr> <td>A</td> <td></td> </tr> </table>	委員会 評 価	総合戦略のKPI達成に有効であった。	A	
委員会 評 価	総合戦略のKPI達成に有効であった。				
A					

- A：目標以上に進捗しており、このまま継続して事業を推進する。  
B：ほぼ目標どおりに進捗しており、継続して事業を推進する。  
C：目標をやや下回っており、要因の分析を要する。  
D：目標を大きく下回っており、要因の分析と目標値の見直しを要する。  
E：目標値または事業自体の抜本的見直しを要する。

泉崎村まち・ひと・しごと創生総合戦略 PDCAサイクル 進捗管理シート

平成 30 年度分		担当課	教育課学校教育係
基本目標	1 ひとを育む		
施策の枠組み	(1) 結婚・出産・子育てへの切れ目のない支援		
具体的施策	③学習・教育の場の充実		
事業名	学校などを通じた健康教育・食育の充実事業		
事業概要	最終予算額	0千円	決算額 0千円
	健康教育・食育教育の強化により子どもたちの生きる力を育てる。		

計画 (P) ↓ 実施 (D)	目標事項・進捗状況	目標事項	健康教育・食育の小・中カリキュラムへの導入						
		KPI	導入済(令和元年度)						
		数値	現状値	27年度	28年度	29年度	30年度	R1年度	備考
			—	未導入	未導入	導入	導入		
		達成率	—	0%	0%	100%	100%		
		目標事項							
		KPI							
		数値	現状値	27年度	28年度	29年度	30年度	R1年度	備考
		達成率							

平成 30 年度	評価 (C)	30年度評価	
		担当課 評価	栄養士による食育教育を幼稚園・小学校で各クラス2時間を導入、また、中学校では、各学年1時間を実施することとして計画を進め、概ね実施できた。
	改善 (A)	令和元年度における取り組みなど	
		給食センター、栄養教員が小学校・中学校を訪問し、各クラス年2回、総合活動の時間や学級活動などの時間を利用し、各学校と時間調整を行い、食育活動を実施予定。	
	委員会 意見	評価等に対する意見	
		委員会 評価	総合戦略のKPI達成に有効であった。
		B	

- A：目標以上に進捗しており、このまま継続して事業を推進する。
- B：ほぼ目標どおりに進捗しており、継続して事業を推進する。
- C：目標をやや下回っており、要因の分析を要する。
- D：目標を大きく下回っており、要因の分析と目標値の見直しを要する。
- E：目標値または事業自体の抜本的見直しを要する。

泉崎村まち・ひと・しごと創生総合戦略 PDCAサイクル 進捗管理シート

平成 30 年度分	担当課	住民福祉課福祉係
基本目標	1 ひとを育む	
施策の枠組み	(1) 結婚・出産・子育てへの切れ目のない支援	
具体的施策	④経済的支援の推進	
事業名	泉崎村特定不妊治療費助成事業	
事業概要	最終予算額	750千円
	決算額	0千円
子どもを希望しながらも恵まれない夫婦に対し、特定不妊治療に要する治療費の一部を助成することにより、経済的負担の軽減並びに少子化対策の推進を図る。		

計画 (P) ↓ 実施 (D)	目標事項・進捗状況	目標事項	特定不妊治療費助成受給者の出生数						
		KPI	2人(令和元年度)						
		数値	現状値	27年度	28年度	29年度	30年度	R1年度	備考
			達成率	2人	0人	0人	0人		
		達成率	100%	0%	0%	0%			
		目標事項							
		KPI							
		数値	現状値	27年度	28年度	29年度	30年度	R1年度	備考
			達成率						

平成 30 年度	評価 (C)	30年度評価		
		担当課 評価	29年度から男性不妊も助成対象とした。30年度も村広報誌での事業の周知を実施した。希望者は0名であった。	
		B		
	改善 (A)	令和元年度における取り組みなど		
		広報等での周知を図りながら、継続して事業を実施していく。		
	委員会意見	評価等に対する意見		
委員会 評価		総合戦略のKPI達成に有効であった。		
B				

- A：目標以上に進捗しており、このまま継続して事業を推進する。
- B：ほぼ目標どおりに進捗しており、継続して事業を推進する。
- C：目標をやや下回っており、要因の分析を要する。
- D：目標を大きく下回っており、要因の分析と目標値の見直しを要する。
- E：目標値または事業自体の抜本的見直しを要する。

泉崎村まち・ひと・しごと創生総合戦略 PDCAサイクル 進捗管理シート

平成 30 年度分	担当課	総務課企画財政係
基本目標	1 ひとを育む	
施策の枠組み	(1) 結婚・出産・子育てへの切れ目のない支援	
具体的施策	⑤ワーク・ライフ・バランスの推進	
事業名	ワーク・ライフ・バランス啓発推進事業	
事業概要	最終予算額	0千円
	決算額	0千円
ワーク・ライフ・バランスの実現に向けて、子育てを行う若い世代等の長時間労働を削減するため、フレックスタイム制度や朝方勤務制度の実施を推進します。 また、フレックス育児休暇等の制度を設けた企業・事業者に対する、優良企業の認定を行うことにより、出産・育児と仕事の両立の実現を支援します。		

計画 (P) ↓ 実施 (D)	目標事項・進捗状況	目標事項	ワーク・ライフ・バランス優良企業認定数					
		KPI	1 (令和元年度)					
		現状値	27年度	28年度	29年度	30年度	R1年度	備考
		数値	—	0	0	0	0	
		達成率	—	0%	0%	0%	0%	
		目標事項						
		KPI						
		現状値	27年度	28年度	29年度	30年度	R1年度	備考
		数値						
		達成率						

平成 30 年度	評価 (C)	30年度評価	
		担当課 評価	ワーク・ライフ・バランス優良企業を認定するための、情報収集を行い、制度設計に向けた作業を早期に実施したい。
		C	
	改善 (A)	令和元年度における取り組みなど	
		ワーク・ライフ・バランス優良企業を認定するための、先進事例の情報収集を行い、制度設計に向けた作業を早期に実施したい。	
委員会 意見	評価等に対する意見		
	委員会 評価	総合戦略のKPI達成に有効であった。	
	C		

- A：目標以上に進捗しており、このまま継続して事業を推進する。
- B：ほぼ目標どおりに進捗しており、継続して事業を推進する。
- C：目標をやや下回っており、要因の分析を要する。
- D：目標を大きく下回っており、要因の分析と目標値の見直しを要する。
- E：目標値または事業自体の抜本的見直しを要する。

泉崎村まち・ひと・しごと創生総合戦略 PDCAサイクル 進捗管理シート

平成 30 年度分		担当課	事業課産業係
基本目標	2 しごとをつくる		
施策の枠組み	(1) 企業誘致等の促進		
具体的施策	①企業誘致による雇用創出		
事業名	企業誘致事業		
事業概要	最終予算額 1,916 千円	決算額 1,140 千円	
	自然環境との調和に配慮しながら、官民一体となった企業誘致体制を確立し、高い成長が見込まれる医療・福祉関連産業やソフト系 I T 関連産業等に加え、商業施設の立地可能性の検討等、多様な企業の誘致による雇用創出を推進します。		

計画 (P) ↓ 実施 (D)	目標事項・進捗状況	目標事項	誘致企業数					
		K P I	3 社 (令和元年度までの 5 年間累計)					
		現状値	27 年度	28 年度	29 年度	30 年度	R1 年度	備考
		数 値	—	1 社	2 社	0 社	0 社	
		達成率	—	3 3 %	100%	100%	100%	
		目標事項						
		K P I						
		現状値	27 年度	28 年度	29 年度	30 年度	R1 年度	備考
		数 値						
		達成率						

平成 30 年度	評価 (C)	30 年度評価	
		担当課 評価	28 年度に中核工業団地において 2 件の土地売買があり、その内 1 社の企業が令和元年 6 月に操業を開始しており、新たな雇用が期待されている。 また、残りの 1 社に対しても設備投資や雇用の面で支援できる制度等を周知し、活用できるよう支援したい。
	(A) 改善	令和元年度における取り組みなど	
		工業団地においては、売却可能な土地を有していないことから、既存企業へ村出身者の雇用や設備投資の拡大についても継続して、働きかけていきたい。	
	委員会意見	評価等に対する意見	
		委員会 評価	総合戦略の KPI 達成に有効であった。
		A	

- A：目標以上に進捗しており、このまま継続して事業を推進する。
- B：ほぼ目標どおりに進捗しており、継続して事業を推進する。
- C：目標をやや下回っており、要因の分析を要する。
- D：目標を大きく下回っており、要因の分析と目標値の見直しを要する。
- E：目標値または事業自体の抜本的見直しを要する。

泉崎村まち・ひと・しごと創生総合戦略 PDCAサイクル 進捗管理シート

平成 30 年度分		担当課	事業課産業係
基本目標	2 しごとをつくる		
施策の枠組み	(1) 企業誘致等の促進		
具体的施策	②地域企業の競争力強化による雇用創出		
事業名	商店の活性化事業		
事業概要	最終予算額	3,500 千円	決算額 3,500 千円
	県や村商工会等との連携を強化し、商業振興制度の拡充により、村内の商店の活性化を図ることにより、商業の総合的な発展を目指します。		

計画 (P) ↓ 実施 (D)	目標事項・進捗状況	目標事項	村内商店数					
		KPI	37 (令和元年度)					
		現状値	27年度	28年度	29年度	30年度	R1年度	備考
		数値	—	34	34	34	27	
		達成率	—	92%	92%	92%	73%	
		目標事項						
		KPI						
		現状値	27年度	28年度	29年度	30年度	R1年度	備考
		数値						
		達成率						

平成 30 年度	評価 (C)	30 年度評価	
		担当課 評価	商工振興事業補助金として、村商工会に補助金を交付し、商工会及び商工会加盟商店等の活性化に寄与した。
		B	
	改善 (A)	令和元年度における取り組みなど	
		同補助事業の継続と、商店等の村主催事業等への積極的参加を呼びかけ、自らの地域活性化事業の展開を促す。	
	委員会意見	評価等に対する意見	
委員会 評価		総合戦略の KPI 達成に有効であった。	
		B	

- A：目標以上に進捗しており、このまま継続して事業を推進する。  
 B：ほぼ目標どおりに進捗しており、継続して事業を推進する。  
 C：目標をやや下回っており、要因の分析を要する。  
 D：目標を大きく下回っており、要因の分析と目標値の見直しを要する。  
 E：目標値または事業自体の抜本的見直しを要する。

泉崎村まち・ひと・しごと創生総合戦略 PDCAサイクル 進捗管理シート

平成 30 年度分		担当課	事業課産業係
基本目標	2 しごとをつくる		
施策の枠組み	(1) 企業誘致等の促進		
具体的施策	②地域企業の競争力強化による雇用創出		
事業名	高度化資金等の助成制度の促進事業		
事業概要	最終予算額	0千円	決算額 0千円
	県や村商工会等との連携を強化し、高度化資金等の助成制度の促進や商業振興制度の拡充により、村内の商店の活性化を図ることにより、商業の総合的な発展を目指します。		

計画 (P) ↓ 実施 (D)	目標事項・進捗状況	目標事項	高度化資金の助成件数					
		KPI	1件(令和元年度)					
		現状値	27年度	28年度	29年度	30年度	R1年度	備考
		数値	—	0件	0件	0件	0件	
		達成率	—	0%	0%	0%	0%	
		目標事項						
		KPI						
		現状値	27年度	28年度	29年度	30年度	R1年度	備考
		数値						
		達成率						

平成 30 年度	評価 (C)	30年度評価		
		担当課 評価	目標にある高度化資金等の助成制度の利用等の実績はないが、今後も県や村商工会との連携を密に行い、村内商店の活性化を図る。	
		D		
	改善 (A)	令和元年度における取り組みなど		
		高度化資金制度の内容を知らない事業者もいる事から、村広報紙等での周知や、商工会を通じて事業者へ情報提供していきたい。		
	委員会意見	評価等に対する意見		
委員会 評価		総合戦略の KPI 達成に有効とは言えない。		
	D			

- A：目標以上に進捗しており、このまま継続して事業を推進する。
- B：ほぼ目標どおりに進捗しており、継続して事業を推進する。
- C：目標をやや下回っており、要因の分析を要する。
- D：目標を大きく下回っており、要因の分析と目標値の見直しを要する。
- E：目標値または事業自体の抜本的見直しを要する。

泉崎村まち・ひと・しごと創生総合戦略 PDCAサイクル 進捗管理シート

平成 30 年度分		担当課	事業課産業係
基本目標	2 しごとをつくる		
施策の枠組み	(1) 企業誘致等の促進		
具体的施策	③若年層等の新規就業・創業への支援		
事業名	新規創業者・新事業展開補助金事業		
事業概要	最終予算額	0千円	決算額 0千円
	企業誘致等に伴う求人情報の提供や必要な職業訓練について、関係機関と連携した支援を強化します。また、村内で創業・起業する事業者に対する補助金の交付や、活用可能な空き家・空き店舗等の情報提供等の支援を行い、新たな事業の立ち上げを促進します。		

計画 (P) ↓ 実施 (D)	目標事項・進捗状況	目標事項	創業・起業に活用された空き家・空き店舗数						
		KPI	5件(令和元年度)						
		数値	現状値	27年度	28年度	29年度	30年度	R1年度	備考
			—	3件	0件	0件	0件		
		達成率	—	60%	0%	0%	0%		
		目標事項	創業・起業数						
		KPI	10件(令和元年度)						
		数値	現状値	27年度	28年度	29年度	30年度	R1年度	備考
			—	8件	0件	0件	0件		
		達成率	—	80%	0%	0%	0%		

平成 30 年度	評価 (C)	30年度評価	
		担当課 評価	空き家・空き店舗の活用事例はなかったが、令和元年度新たに中核工業団地で企業が操業開始予定。今後も雇用の拡大に向け、企業に継続して村内住民の雇用を働きかけたいと考える。
		C	
	改善 (A)	令和元年度における取り組みなど	
		村内で空き家等を活用して、創業・起業したいという問い合わせ等はないが、他市町村の取り組みを参考にしながら、関係団体等と連携するなど今後検討したい。	
	委員会 意見	評価等に対する意見	
委員会 評価		総合戦略のKPI達成に有効であった。	
	C		

- A：目標以上に進捗しており、このまま継続して事業を推進する。
- B：ほぼ目標どおりに進捗しており、継続して事業を推進する。
- C：目標をやや下回っており、要因の分析を要する。
- D：目標を大きく下回っており、要因の分析と目標値の見直しを要する。
- E：目標値または事業自体の抜本的見直しを要する。

泉崎村まち・ひと・しごと創生総合戦略 PDCAサイクル 進捗管理シート

平成 30 年度分		担当課	事業課産業係
基本目標	2 しごとをつくる		
施策の枠組み	(2) 製品の販路拡大		
具体的施策	①村製品の販路開拓へ向けた地産地消		
事業名	地産地消の推進事業		
事業概要	最終予算額	3,123 千円	決算額 3,092 千円
	風評被害払拭及び地産地消推進のため、県外において村の農産物や特産品の販売をするとともに、観光や住宅団地の PR することを目的に実施。		

計画 (P) ↓ 実施 (D)	目標事項・進捗状況	目標事項	村製品の取り扱い施設・店舗数					
		KPI	12 (令和元年度)					
		現状値	27年度	28年度	29年度	30年度	R1年度	備考
		数値	—	9	9	9	7	
		達成率	—	75%	75%	75%	58%	
		目標事項						
		KPI						
		現状値	27年度	28年度	29年度	30年度	R1年度	備考
		数値						
		達成率						

平成 30 年度	評価 (C)	30年度評価	
		担当課 評価	県外でのPR活動は、やや少なかったが、直売所のオープンに伴い独自イベントやパークゴルフ場の大会等で村内の農産物及び加工品を積極的にPRすることが出来た。
	(A) 改善	令和元年度における取り組みなど	
		昨年6月より、農産物直売所(はにわの里)がオープンしたことにより、加工場において(いずみちゃんクッキー、蒸しパン、あんこ餅、干し柿等)の加工品を製造・販売していきたい。	
	委員会意見	評価等に対する意見	
		委員会 評価	総合戦略のKPI達成に有効であった。
		B	

- A: 目標以上に進捗しており、このまま継続して事業を推進する。
- B: ほぼ目標どおりに進捗しており、継続して事業を推進する。
- C: 目標をやや下回っており、要因の分析を要する。
- D: 目標を大きく下回っており、要因の分析と目標値の見直しを要する。
- E: 目標値または事業自体の抜本的見直しを要する。

泉崎村まち・ひと・しごと創生総合戦略 PDCAサイクル 進捗管理シート

平成30年度分		担当課	事業課産業係
基本目標	2 しごとをつくる		
施策の枠組み	(2) 製品の販路拡大		
具体的施策	②農林畜産物の販路開拓		
事業名	観光案内所を兼ねた直売所建設の検討事業		
事業概要	最終予算額	2,186千円	決算額 1,256千円
	泉崎村総合直売所（仮称）検討委員会を実施し、近い将来観光案内所を兼ね備えた総合直売所建設することにより、村の農業生産者の販路拡大に繋げる。		

計画 (P) ↓ 実施 (D)	目標事項・進捗状況	目標事項	直売所の開設数						
		KPI	3箇所（令和元年度）						
		数値	現状値	27年度	28年度	29年度	30年度	R1年度	備考
			—	2箇所	0箇所	0箇所	1箇所		
		達成率	—	67%	0%	0%	33%		
		目標事項							
		KPI							
		数値	現状値	27年度	28年度	29年度	30年度	R1年度	備考
		達成率							

平成30年度	評価 (C)	30年度評価	
		担当課 評価	今年6月に、これまで建設・運営を進めてきた泉崎村農産物直売所（はにわの里）がオープンすることが出来た。今後は地産地消及び販路拡大に向け努力していかなければならないが、村内に観光と情報発信拠点となる施設が出来たことは、生産者のみならず村農政事業に大きな影響を与えることが出来た。
	(A) 改善	令和元年度における取り組みなど	
		オープンした直売所は、6次産業館として農産物の加工、流通、販売に対応した施設である。そのため、農産物を販売する販路の一つとして使うのではなく、新たな商品を開発し、地域施設に流通させられるよう努力していきたい。	
	委員会意見	評価等に対する意見	
		委員会 評価	総合戦略のKPI達成に有効であった。
		B	

- A：目標以上に進捗しており、このまま継続して事業を推進する。
- B：ほぼ目標どおりに進捗しており、継続して事業を推進する。
- C：目標をやや下回っており、要因の分析を要する。
- D：目標を大きく下回っており、要因の分析と目標値の見直しを要する。
- E：目標値または事業自体の抜本的見直しを要する。

泉崎村まち・ひと・しごと創生総合戦略 PDCAサイクル 進捗管理シート

平成 30 年度分		担当課	事業課産業係
基本目標	2 しごとをつくる		
施策の枠組み	(2) 製品の販路拡大		
具体的施策	②農林畜産物の販路開拓		
事業名	県のアンテナショップへの出品事業		
事業概要	最終予算額	0千円	決算額 0千円
	県のアンテナショップ (MIDETTE) 日本橋ふくしま館等へ泉崎村の農産物等を出品することにより、販路開拓及び泉崎村の PR をすることを目標とする。		

計画 (P) ↓ 実施 (D)	目標事項・進捗状況	目標事項	県アンテナショップの村産品取扱品目数					
		KPI	1品 (令和元年度)					
		現状値	27年度	28年度	29年度	30年度	R1年度	備考
		数値	—	0品	0品	0品	0品	
		達成率	—	0%	0%	0%	0%	
		目標事項						
		KPI						
		現状値	27年度	28年度	29年度	30年度	R1年度	備考
		数値						
		達成率						

平成 30 年度	評価 (C)	30 年度評価	
		担当課 評価	今年度については、県のアンテナショップでの村産品の取扱いはなかった。
		C	
	(A) 改善	令和元年度における取り組みなど	
		農産物直売所「はにわの里」がオープンしたことから、連携しながら商品開発・出品方法を確認して販路拡大に繋げたい。	
	委員会意見	評価等に対する意見	
委員会 評価		総合戦略の KPI 達成に有効であった。	
		C	

- A：目標以上に進捗しており、このまま継続して事業を推進する。
- B：ほぼ目標どおりに進捗しており、継続して事業を推進する。
- C：目標をやや下回っており、要因の分析を要する。
- D：目標を大きく下回っており、要因の分析と目標値の見直しを要する。
- E：目標値または事業自体の抜本的見直しを要する。

泉崎村まち・ひと・しごと創生総合戦略 PDCAサイクル 進捗管理シート

平成 30 年度分		担当課	事業課産業係
基本目標	2 しごとをつくる		
施策の枠組み	(3) 未来につながる農業づくり		
具体的施策	①農業生産基盤の強化		
事業名	経営体育成対策事業		
事業概要	最終予算額	0千円	決算額 0千円
	地域の将来を担う中心経営体の育成・確保を図ることが課題となっている。中心経営体が、経営規模の拡大や農産物の加工・流通・販売等の経営の多角化等に取り組む際に必要となる農業用機械等の導入について支援する。		

計画 (P) ↓ 実施 (D)	目標事項・進捗状況	目標事項	育成対象とする農業経営体数					
		KPI	6 (令和元年度)					
		現状値	27年度	28年度	29年度	30年度	R1年度	備考
		数値	—	5	5	5	5	
		達成率	—	83%	83%	83%	83%	
		目標事項						
		KPI						
		現状値	27年度	28年度	29年度	30年度	R1年度	備考
		数値						
		達成率						

平成 30 年度	評価 (C)	30年度評価	
		担当課 評価	今年度については、実績がなかったが、今後、福島県、JA等関係機関と連携して事業の継続を図る。
		C	
	改善 (A)	令和元年度における取り組みなど	
		事業概要について、農政説明会等で情報提供を行って行きたい。 また、経営体育成支援事業は廃止され、後継事業として、「担い手づくり総合支援事業」「地域担い手育成支援事業」に引き継がれました。	
	委員会意見	評価等に対する意見	
委員会 評価		総合戦略の KPI 達成に有効であった。	
	C		

- A：目標以上に進捗しており、このまま継続して事業を推進する。
- B：ほぼ目標どおりに進捗しており、継続して事業を推進する。
- C：目標をやや下回っており、要因の分析を要する。
- D：目標を大きく下回っており、要因の分析と目標値の見直しを要する。
- E：目標値または事業自体の抜本的見直しを要する。

泉崎村まち・ひと・しごと創生総合戦略 PDCAサイクル 進捗管理シート

平成 30 年度分		担当課	事業課産業係
基本目標	2 しごとをつくる		
施策の枠組み	(3) 未来につながる農業づくり		
具体的施策	①農業生産基盤の強化		
事業名	集落営農対策事業		
事業概要	最終予算額	0千円	決算額 0千円
	近年、農家の高齢化及び地域における担い手・後継者不足が課題となっている。地域農地の継続的な耕作・維持管理のため、集落ぐるみで集落全体の農業生産の効率化と所得向上を図り合理的な農業の展開を支援する。		

計画 (P) ↓ 実施 (D)	目標事項・進捗状況	目標事項	集落営農組織数					
		KPI	3 (令和元年度)					
		現状値	27年度	28年度	29年度	30年度	R1年度	備考
		数値	—	2	2	2	2	
		達成率	—	66%	66%	66%	66%	
		目標事項						
		KPI						
		現状値	27年度	28年度	29年度	30年度	R1年度	備考
		数値						
		達成率						

平成 30 年度	評価 (C)	30年度評価	
		担当課 評価	現在活動している二つ集落営農組織は、村内全域を活動範囲としており経営所得安定対策事業への加入を主たる目的として設立されている。
	(A) 改善	令和元年度における取り組みなど	
		今後設立する組織については、地域の情勢に合わせたハトムギ生産組合の営農組織の設立を目指す。	
	委員会意見	評価等に対する意見	
		委員会 評価	総合戦略の KPI 達成に有効であった。
		C	

- A：目標以上に進捗しており、このまま継続して事業を推進する。
- B：ほぼ目標どおりに進捗しており、継続して事業を推進する。
- C：目標をやや下回っており、要因の分析を要する。
- D：目標を大きく下回っており、要因の分析と目標値の見直しを要する。
- E：目標値または事業自体の抜本的見直しを要する。

泉崎村まち・ひと・しごと創生総合戦略 PDCAサイクル 進捗管理シート

平成 30 年度分		担当課	事業課産業係
基本目標	2 しごとをつくる		
施策の枠組み	(3) 未来につながる農業づくり		
具体的施策	②農業の6次産業化の推進		
事業名	6次産業化の推進事業		
事業概要	最終予算額	362 千円	決算額 200 千円
	魅力ある農業を推進するため、農薬等を使用しない農法（有機栽培）を実施する。		
	事業内容としては、試験研究を目的とした農地（圃場）を借用し、一般参加者により有機栽培を実施する。 また、将来的には収穫した農産物を利活用した6次化商品の開発を行い、村の魅力を発信できる特産品にする。		

計画 (P) ↓ 実施 (D)	目標事項・進捗状況	目標事項	6次産業化による製品開発数						
		KPI	1 (令和元年度)						
		数 値	現状値	27 年度	28 年度	29 年度	30 年度	R1 年度	備考
			—	0	0	0	0		
		達成率	—	0%	0%	0%	0%		
		目標事項							
		KPI							
		数 値	現状値	27 年度	28 年度	29 年度	30 年度	R1 年度	備考
		達成率							

平成 30 年度	評価 (C)	30 年度評価	
		担当課 評価	今年度は、玉葱 500 本、トウモロコシ 140 本、茄子 6 本、かぼちゃ 30 株、ピーマン 4 本、とうがらし 2 本、さつまいも 150 本、うり 8 本、ニンニク 100 本を作付けした。今年度も残念ながら有機農業をやりたいなどの話はありませんでしたが、現在の圃場で体に良く美味しい農産物を収穫し、直売所で販売することで有機野菜を広げて行きたい。
		C	
	改善 (A)	令和元年度における取り組みなど	
		平成 30 年 6 月に泉崎農産物直売所はにわの里がオープンし、6次化商品の研究、開発する環境が整ったので、今後は6次化商品の開発に力を入れていきたい。また、はにわの里でイベントを行うことで、有機栽培食品、6次化商品をPR出来るよう努力したい。	
	委員会意見	評価等に対する意見	
委員会 評価		総合戦略の KPI 達成に有効であった。	
C			

- A：目標以上に進捗しており、このまま継続して事業を推進する。
- B：ほぼ目標どおりに進捗しており、継続して事業を推進する。
- C：目標をやや下回っており、要因の分析を要する。
- D：目標を大きく下回っており、要因の分析と目標値の見直しを要する。
- E：目標値または事業自体の抜本的見直しを要する。

泉崎村まち・ひと・しごと創生総合戦略 PDCAサイクル 進捗管理シート

平成 30 年度分		担当課	事業課産業係
基本目標	2 しごとをつくる		
施策の枠組み	(3) 未来につながる農業づくり		
具体的施策	③農業の担い手の育成・確保		
事業名	新規就農者等への支援事業（青年就農給付金事業）		
事業概要	最終予算額	6,750 千円	決算額 6,750 千円
	農業従事者の高齢化及び地域の担い手農家不足が進展する中、持続可能な力強い農業を実現するには、青年の新規就農者を増加させる必要があり、新規就農するにあたっては、技術の習得や所得の確保等が課題となっていることから、経営が不安定な就農直後（5 年以内）の所得を確保する給付金を給付し、青年の新規就農者を増加させることを目的とする。		

計画 (P) ↓ 実施 (D)	目標事項・進捗状況	目標事項	新規就農者数						
		KPI	6 人（令和元年度）						
		数 値	現状値	27 年度	28 年度	29 年度	30 年度	R1 年度	備考
			—	4 人	0 人	0 人	2 人		
		達成率	—	6 7 %	0 %	0 %	3 3 %		
		目標事項							
		KPI							
		数 値	現状値	27 年度	28 年度	29 年度	30 年度	R1 年度	備考
		達成率							

平成 30 年度	評価 (C)	30 年度評価	
		担当課 評 価	本年度においては、新規就農者が 2 件あった。今後とも事業の情報発信を行っていききたい。
		C	
	改善 (A)	令和元年度における取り組みなど	
		福島県、JA 等と情報を共有し就農希望者の掘り起こしや新規就農に関する相談体制を強化すると共に情報の発信を実施する。	
	委員会意見	評価等に対する意見	
委員会 評 価		総合戦略の KPI 達成に有効であった。	
C			

- A：目標以上に進捗しており、このまま継続して事業を推進する。
- B：ほぼ目標どおりに進捗しており、継続して事業を推進する。
- C：目標をやや下回っており、要因の分析を要する。
- D：目標を大きく下回っており、要因の分析と目標値の見直しを要する。
- E：目標値または事業自体の抜本的見直しを要する。

泉崎村まち・ひと・しごと創生総合戦略 PDCAサイクル 進捗管理シート

平成 30 年度分		担当課	事業課産業係
基本目標	3 ひとの流れをつくる		
施策の枠組み	(1) 移住・定住の促進		
具体的施策	①首都圏を中心とした移住・定住の情報発信		
事業名	泉崎村ライフスタイル提案事業		
事業概要	最終予算額 1,429 千円	決算額 1,194 千円	
	泉崎村への移住を検討している人のため、過去に移住した人を対象に、村での生活を調査し、ライフスタイルの例として冊子作成・HPへの公開を行います。		

計画 (P) ↓ 実施 (D)	目標事項・進捗状況	目標事項	泉崎村ライフスタイル調査の実施						
		KPI	実施済 (令和元年度)						
			現状値	27年度	28年度	29年度	30年度	R1年度	備考
		数値	—	未実施	実施済	実施済	実施済		
		達成率	—	0%	100%	100%	100%		
		目標事項	泉崎村ライフスタイル冊子の作成						
		KPI	作成済 (令和元年度)						
			現状値	27年度	28年度	29年度	30年度	R1年度	備考
		数値	—	未作成	未作成	未作成	未作成		
		達成率	—	0%	0%	0%	0%		

平成 30 年度	評価 (C)	30年度評価	
		担当課 評価	① 今年度は、春に東京都から泉崎村までのバスツアーを開催し 21 名が参加した。翌日には、桜ウォークにも参加してもらい参加した村民の方々との交流を図るなどライフスタイルを提案し、泉崎村の魅力を発信した。(わっはっは！！泉崎村交流拡大事業委託費 800,000 円他)
	(A) 改善		令和元年度における取り組みなど
			今年度は泉崎村内施設の紹介や各種支援制度を記載したライフスタイル冊子を作成予定。日本橋 MIDETTE や、ふくしま回帰支援センター等の東京所在の施設と連携し、ライフスタイルの提案を行いたい。
	委員会意見		評価等に対する意見
		委員会 評価	総合戦略の KPI 達成に有効であった。
		B	

- A：目標以上に進捗しており、このまま継続して事業を推進する。
- B：ほぼ目標どおりに進捗しており、継続して事業を推進する。
- C：目標をやや下回っており、要因の分析を要する。
- D：目標を大きく下回っており、要因の分析と目標値の見直しを要する。
- E：目標値または事業自体の抜本的見直しを要する。

泉崎村まち・ひと・しごと創生総合戦略 PDCAサイクル 進捗管理シート

平成 30 年度分		担当課	教育課学校教育係
基本目標	3 ひとの流れをつくる		
施策の枠組み	(1) 移住・定住の促進		
具体的施策	②地域のニーズに対応した移住者受入体制の構築		
事業名	Uターン者等の奨学金の減免事業		
事業概要	最終予算額	0千円	決算額 0千円
	泉崎村出身者が大学卒業後に村内に居住・就職すること等による奨学金の一部減免		

計画 (P) ↓ 実施 (D)	目標事項・進捗状況	目標事項	奨学金の減免者数						
		KPI	3人(令和元年度)						
		数値	現状値	27年度	28年度	29年度	30年度	R1年度	備考
			—	0人	0人	0人	0人		
		達成率	—	0%	0%	0%	0%		
		目標事項							
		KPI							
		数値	現状値	27年度	28年度	29年度	30年度	R1年度	備考
		達成率							

平成 30 年度	評価 (C)	30年度評価	
		担当課 評価	要綱も出来ていない。検討を要するがまだ取り組んでいない。
		D	
	(A) 改善	令和元年度における取り組みなど	
		特に取り組んでいない。	
	委員会意見	評価等に対する意見	
委員会 評価		総合戦略の KPI 達成に有効とは言えない。	
		D	

- A：目標以上に進捗しており、このまま継続して事業を推進する。
- B：ほぼ目標どおりに進捗しており、継続して事業を推進する。
- C：目標をやや下回っており、要因の分析を要する。
- D：目標を大きく下回っており、要因の分析と目標値の見直しを要する。
- E：目標値または事業自体の抜本的見直しを要する。

泉崎村まち・ひと・しごと創生総合戦略 PDCAサイクル 進捗管理シート

平成 30 年度分	担当課	総務課企画財政係
基本目標	3 ひとの流れをつくる	
施策の枠組み	(1) 移住・定住の促進	
具体的施策	②地域のニーズに対応した移住者受入体制の構築	
事業名	地域おこし協力隊の活用事業	
事業概要	最終予算額 0千円	決算額 0千円
	地域の理解と協力を得て地域おこし協力隊の受け入れを行い、移住・定住を促進します。	

計画 (P) ↓ 実施 (D)	目標事項・進捗状況	目標事項	地域おこし協力隊の受け入れ数						
		KPI	1人(令和元年度)						
		数値	現状値	27年度	28年度	29年度	30年度	R1年度	備考
			—	0人	0人	0人	0人		
		達成率	—	0%	0%	0%	0%		
		目標事項							
		KPI							
		数値	現状値	27年度	28年度	29年度	30年度	R1年度	備考
		達成率							

平成 30 年度	評価 (C)	30年度評価	
		担当課 評価	地域おこし協力隊の受け入れに向けて情報収集をしている。
		C	
	改善 (A)	令和元年度における取り組みなど	
		地域おこし協力隊の受け入れを行っている近隣市町村の担当者等から情報収集を行いたい。	
	委員会 意見	評価等に対する意見	
委員会 評価		総合戦略のKPI達成に有効であった。	
	C		

- A：目標以上に進捗しており、このまま継続して事業を推進する。
- B：ほぼ目標どおりに進捗しており、継続して事業を推進する。
- C：目標をやや下回っており、要因の分析を要する。
- D：目標を大きく下回っており、要因の分析と目標値の見直しを要する。
- E：目標値または事業自体の抜本的見直しを要する。

泉崎村まち・ひと・しごと創生総合戦略 PDCAサイクル 進捗管理シート

平成 30 年度分		担当課	事業課産業係
基本目標	3 ひとの流れをつくる		
施策の枠組み	(1) 移住・定住の促進		
具体的施策	③住まいの確保による移住・定住促進		
事業名	若者定住賃貸住宅建設事業		
事業概要	最終予算額 13,400 千円	決算額 13,400 千円	
	若年層の方々の定住促進を図ることにより、人口の増加及び地域社会の活性化を目指す。		

計画 (P) ↓ 実施 (D)	目標事項・進捗状況	目標事項	若者定住賃貸住宅建設数						
		KPI	4 戸 (令和元年度 5 年間累計)						
		数 値	現状値	27 年度	28 年度	29 年度	30 年度	R1 年度	備考
			—	1 戸	1 戸	1 戸	1 戸		
		達成率	—	25%	50%	75%	100%		
		目標事項							
		KPI							
		数 値	現状値	27 年度	28 年度	29 年度	30 年度	R1 年度	備考
		達成率							

平成 30 年度	評価 (C)	30 年度評価	
		担当課 評価	30 年度までに 4 棟が完成し既に入居されている。 入居者の方々には積極的に村のイベントに参加して頂くなど村の活性化に大いに貢献していただいている。
	(A) 改善	令和元年度における取り組みなど	
		5 号棟を建設予定 (9 月末完成予定) であり、年度内には入居者を募集し、抽選・引渡しを行う予定としている。	
	委員会意見	評価等に対する意見	
		委員会 評価	総合戦略の KPI 達成に有効であった。
		A	

- A：目標以上に進捗しており、このまま継続して事業を推進する。
- B：ほぼ目標どおりに進捗しており、継続して事業を推進する。
- C：目標をやや下回っており、要因の分析を要する。
- D：目標を大きく下回っており、要因の分析と目標値の見直しを要する。
- E：目標値または事業自体の抜本的見直しを要する。

泉崎村まち・ひと・しごと創生総合戦略 PDCAサイクル 進捗管理シート

平成 30 年度分	担当課	事業課建設水道係
基本目標	3 ひとの流れをつくる	
施策の枠組み	(1) 移住・定住の促進	
具体的施策	③住まいの確保による移住・定住促進	
事業名	公営住宅・定住促進住宅長寿命化対策事業（公営住宅等ストック総合改善事業）	
事業概要	最終予算額	0千円
	決算額	0千円
<p>H26年度～H35年度までの10年間を長寿命化計画期間とし、前期・後期5年ずつとし計画内容は5年ごとに見直すこととなっている。村営住宅・定住促進住宅においては、耐用年数を超過・または耐用年数の過半を超過した住戸はない。しかし、躯体の耐久性、経年劣化による設備類の改修が重要な課題であるため、定期点検等を踏まえた効果的な計画のもと、ストックを有効的に維持管理するため、計画的な修繕・改善等の検討も行う。</p>		

計画 (P) ↓ 実施 (D)	目標事項・進捗状況	目標事項	長寿命化実施済み公営住宅数						
		KPI	1棟（令和元年度）						
		数値	現状値	27年度	28年度	29年度	30年度	R1年度	備考
			—	0棟	0棟	0棟	0棟		
		達成率	—	0%	0%	0%	0%		
		目標事項							
		KPI							
		数値	現状値	27年度	28年度	29年度	30年度	R1年度	備考
		達成率							

平成 30 年度	評価 (C)	30年度評価	<p>今年度においては、修繕・改善箇所はなかったが、今後も定期的な建築物等の定期点検を行い、予防保全的な維持管理に努め、耐久性の向上などを目的とし、公営住宅・定住促進住宅の長寿命化を図る。</p>
		担当課 評価	
		B	
	改善 (A)	令和元年度における取り組みなど	<p>今年度は計画見直しの時期であるため、計画見直しを予定している。 また、その計画に基づき、定期点検を実施し、建物の老朽化・劣化による事故等を未然に防ぐとともに、修繕工事の効率的な実施につなげる。</p>
	委員会 意見	評価等に対する意見	<p>総合戦略の KPI 達成に有効であった。</p>
委員会 評価			
B			

- A：目標以上に進捗しており、このまま継続して事業を推進する。  
 B：ほぼ目標どおりに進捗しており、継続して事業を推進する。  
 C：目標をやや下回っており、要因の分析を要する。  
 D：目標を大きく下回っており、要因の分析と目標値の見直しを要する。  
 E：目標値または事業自体の抜本的見直しを要する。

泉崎村まち・ひと・しごと創生総合戦略 PDCAサイクル 進捗管理シート

平成 30 年度分		担当課	総務課企画財政係
基本目標	3 ひとの流れをつくる		
施策の枠組み	(1) 移住・定住の促進		
具体的施策	④交通利便性の向上		
事業名	高速バス乗降場の設置事業		
事業概要	最終予算額	0千円	決算額 0千円
	矢吹インターチェンジ付近に高速バスの停留所「矢吹泉崎バスストップ」を整備することにより、近隣市町村の利便性を首都圏に強く印象付け、来訪者の増加や二地域居住の推進を図る。 平成 30 年度供用開始予定であったが、令和元年度供用開始予定となった。		

計画 (P) ↓ 実施 (D)	目標事項・進捗状況	目標事項	高速バス乗降場の設置					
		KPI	設置済 (令和元年度)					
		現状値	27 年度	28 年度	29 年度	30 年度	R1 年度	備考
		数 値	—	未設置	未設置	未設置	未設置	
		達成率	—	0 %	0 %	0 %	0 %	
		目標事項						
		KPI						
		現状値	27 年度	28 年度	29 年度	30 年度	R1 年度	備考
		数 値						
		達成率						

平成 30 年度	評価 (C)	30 年度評価	
		担当課 評価	平成 29 年度末 (平成 30 年 3 月 26 日)、(仮称) 矢吹泉崎バスストップ建築工事 [下り線] について発注済み。明許繰越事業として、平成 31 年 3 月 5 日完了した。
	(A) 改善	令和元年度における取り組みなど	
		(仮称) 矢吹泉崎バスストップ建築工事 [上り線] を平成 30 年 11 月 6 日に発注。今年度に明許繰越し、6 月末に完了した。 正式なオープンは 8 月 1 日になる見込み。	
	委員会意見	評価等に対する意見	
		委員会 評価	総合戦略の KPI 達成に有効であった。
		B	

- A：目標以上に進捗しており、このまま継続して事業を推進する。
- B：ほぼ目標どおりに進捗しており、継続して事業を推進する。
- C：目標をやや下回っており、要因の分析を要する。
- D：目標を大きく下回っており、要因の分析と目標値の見直しを要する。
- E：目標値または事業自体の抜本的見直しを要する。

泉崎村まち・ひと・しごと創生総合戦略 PDCAサイクル 進捗管理シート

平成 30 年度分	担当課	総務課企画財政係
基本目標	3 ひとの流れをつくる	
施策の枠組み	(1) 移住・定住の促進	
具体的施策	④交通利便性の向上	
事業名	Suica の設置事業	
事業概要	最終予算額 0 円	決算額 0 円
	JR 泉崎駅に簡易 Suica 改札機を設置することにより、泉崎駅を利用する方の利便性を向上させる。 泉崎駅の利便性が向上することにより、通勤・通学で利用する方が増え、人口減少に歯止めをかけたい。	

計画 (P) ↓ 実施 (D)	目標事項・進捗状況	目標事項	Suica の設置					
		KPI	設置済 (令和元年度)					
		現状値	27 年度	28 年度	29 年度	30 年度	R1 年度	備考
		数 値	—	未設置	未設置	未設置	未設置	
		達成率	—	0 %	0 %	0 %	0 %	
		目標事項						
		KPI						
		現状値	27 年度	28 年度	29 年度	30 年度	R1 年度	備考
		数 値						
		達成率						

平成 30 年度	評価 (C)	30 年度評価	
		担当課 評価	福島県鉄道活性化対策協議会を通し JR 東日本本社等への要望した結果、「導入には非常にお金がかかることから、利用状況や導入によって見込まれる効果を総合的に勘案していきたい。」と回答があった。
	改善 (A)	令和元年度における取り組みなど	
		導入に向けて継続して要望していきたい。	
	委員会意見	評価等に対する意見	
		委員会 評価	総合戦略の KPI 達成に有効であった。
		B	

- A：目標以上に進捗しており、このまま継続して事業を推進する。
- B：ほぼ目標どおりに進捗しており、継続して事業を推進する。
- C：目標をやや下回っており、要因の分析を要する。
- D：目標を大きく下回っており、要因の分析と目標値の見直しを要する。
- E：目標値または事業自体の抜本的見直しを要する。

泉崎村まち・ひと・しごと創生総合戦略 PDCAサイクル 進捗管理シート

平成 30 年度分		担当課	中央公民館
基本目標	3 ひとの流れをつくる		
施策の枠組み	(1) 移住・定住の促進		
具体的施策	⑤郷土愛の醸成		
事業名	泉崎の魅力発見事業		
事業概要	最終予算額	500千円	決算額 500千円
	村内外に呼びかけ、泉崎の魅力を発見するためのフィールドワークを実施し、発見した魅力の活用について、ワークショップ等で検討します。		

計画 (P) ↓実施 (D)	目標事項・進捗状況	目標事項	魅力発見ワークショップの実施						
		KPI	実施済 1 (令和元年度)						
		数 値	現状値	27年度	28年度	29年度	30年度	R1年度	備考
			達成率	0%	100%	100%	100%		
		数 値	—	未実施	実施済	実施済	実施済		
		達成率	—	0%	100%	100%	100%		
		目標事項							
		KPI							
		数 値							
		達成率							

平成 30 年度	評価 (C)	30 年度評価	
		担当課 評価	泉崎村のシンボルである「鳥峠」の景観や環境を後世に残す「鳥峠の自然を守る会」の会員を中心に、地域住民の交流の拠点となるよう環境の整備を定期的に行った。
		B	また、会発足より毎年恒例となっている「自然観察会」も年6回開催し、鳥峠の美しい自然に触れ、また稲荷神社本殿に存する村指定文化財を学べる良い機会にもなっている。
	改善 (A)	令和元年度における取り組みなど	
		今年で3回目となる「かたくり祭り」を鳥峠にて開催し、村内のみならず、遠方からの来客もあり、泉崎の魅力を発信する事業のひとつとして展開した。今年度は山頂で泉崎農産物直売所「はにわの里」の出張販売も行い、地元農産物なども併せてPRすることができた。	
	委員会意見	評価等に対する意見	
委員会 評価		総合戦略の KPI 達成に有効であった。	
	B		

- A：目標以上に進捗しており、このまま継続して事業を推進する。
- B：ほぼ目標どおりに進捗しており、継続して事業を推進する。
- C：目標をやや下回っており、要因の分析を要する。
- D：目標を大きく下回っており、要因の分析と目標値の見直しを要する。
- E：目標値または事業自体の抜本的見直しを要する。

泉崎村まち・ひと・しごと創生総合戦略 PDCAサイクル 進捗管理シート

平成 30 年度分	担当課	教育課学校教育係
基本目標	3 ひとの流れをつくる	
施策の枠組み	(1) 移住・定住の促進	
具体的施策	⑤郷土愛の醸成	
事業名	泉崎村の特産品を活かした食育推進事業	
事業概要	最終予算額 417 千円	決算額 417 千円
	地場産の野菜（トマト・きゅうり・ブロッコリー等）や、「夢味パーク」「はと麦」等を活用した給食メニューの開発を推進し、地域の文化の豊かさを子どもたちに伝えることにより、郷土愛を醸成します。 福島県学校給食地産地消推進事業に取り組み、地場産品を取り入れた給食を提供します。（補助金 給食2回分）	

計画 (P) ↓ 実施 (D)	目標事項・進捗状況	目標事項	村産品を活用した給食の延べ回数						
		KPI	月 4 5 回 (令和元年度)						
		数 値	現状値	27 年度	28 年度	29 年度	30 年度	R1 年度	備考
			—	月 33 回	月 23 回	月 25 回	月 28 回		
		達成率	—	73%	51%	52%	55%		
		目標事項							
		KPI							
		数 値	現状値	27 年度	28 年度	29 年度	30 年度	R1 年度	備考
		達成率							

平成 30 年度	評価 (C)	30 年度評価	
		担当課 評価	調理時間の制約があるため、村内産を利用する際には一次処理を必要とするため、村内産を利用できたが加工品も多かった。
		C	福島県学校給食地産地消推進事業に取り組み、11 月に一度実施し、31 年 1 月に 2 回目の献立を実施した。
	改善 (A)	令和元年度における取り組みなど	
		調理時間の制約があるため、村内産を利用する際には一次処理を必要とする。そのため冷凍物を利用してしまうことが多い。米・味噌・椎茸は村内産を使用、ブロッコリーは白河産の冷凍品を使用、また、大根・キャベツ・にんじん、白菜などの野菜について直売所はにわの里のオープンにより地場野菜を購入するなど、地産地消に取り組んでいる。	
	委員会意見	評価等に対する意見	
委員会 評価		総合戦略の KPI 達成に有効であった。	
	C		

- A：目標以上に進捗しており、このまま継続して事業を推進する。
- B：ほぼ目標どおりに進捗しており、継続して事業を推進する。
- C：目標をやや下回っており、要因の分析を要する。
- D：目標を大きく下回っており、要因の分析と目標値の見直しを要する。
- E：目標値または事業自体の抜本的見直しを要する。

泉崎村まち・ひと・しごと創生総合戦略 P D C A サイクル 進捗管理シート

平成 30 年度分	担当課	総務課企画財政係
基本目標	3 ひとの流れをつくる	
施策の枠組み	(2) 観光振興による人の流れの促進	
具体的施策	①国内外からの観光誘客	
事業名	SNSを活用した情報発信事業	
事業概要	最終予算額 600 千円	決算額 585 千円
	観光に関するホームページ作成やフェイスブック等の SNS 活用により、村の魅力等の情報発信力を強化します。	

計画 (P) ↓ 実施 (D)	目標事項・進捗状況	目標事項	SNS 対応ホームページへの平均アクセス数						
		K P I	100 回/日 (令和元年度)						
		数 値	現状値	27 年度	28 年度	29 年度	30 年度	R1 年度	備考
			—	164 回	1,846 回	1,941 回	2056 回		
		達成率	—	164%	1846%	1941%	2056%		
		目標事項							
		K P I							
		数 値	現状値	27 年度	28 年度	29 年度	30 年度	R1 年度	備考
		達成率							

平成 30 年度	評価 (C)	30 年度評価	
		担当課 評価	目標以上に進捗しているが、情報発信を積極的に行っている部署と情報発信を行っていない部署がある。 イベント等の報告が掲載されるケースが多い。イベント等の告知にも活用していかなければいけない。
	(A) 改善	令和元年度における取り組みなど	
		更新を行っていない係に対し、内容を更新するよう要請する。	
	委員会意見	評価等に対する意見	
		委員会 評価	総合戦略の K P I 達成に有効であった。
		A	

- A：目標以上に進捗しており、このまま継続して事業を推進する。
- B：ほぼ目標どおりに進捗しており、継続して事業を推進する。
- C：目標をやや下回っており、要因の分析を要する。
- D：目標を大きく下回っており、要因の分析と目標値の見直しを要する。
- E：目標値または事業自体の抜本的見直しを要する。

泉崎村まち・ひと・しごと創生総合戦略 PDCAサイクル 進捗管理シート

平成 30 年度分	担当課	総務課企画財政係
基本目標	3 ひとの流れをつくる	
施策の枠組み	(2) 観光振興による人の流れの促進	
具体的施策	①国内外からの観光誘客	
事業名	公衆無線LAN整備事業	
事業概要	最終予算額 771 千円	決算額 760 千円
	2020 年までに主要な観光・防災拠点における重点整備箇所について、国が作成する整備計画に基づき、無料 Wi-Fi 環境の整備を推進する。 整備済施設：役場庁舎、保健福祉総合センター、資料館、中央公民館、農業者トレーニングセンター、さつき公園駐車場、第一小学校、第二小学校、中学校	

計画 (P) ↓ 実施 (D)	目標事項・進捗状況	目標事項	1 日の平均アクセス数						
		KPI	30 回						
		数 値	現状値	27 年度	28 年度	29 年度	30 年度	R1 年度	備考
			—	5.6 回	5.1 回	12.1 回	システム不 具合のため 集計できず		
		達成率	—	19%	17%	40%			
		目標事項							
		KPI							
		数 値	現状値	27 年度	28 年度	29 年度	30 年度	R1 年度	備考
		達成率							

平成 30 年度	評価 (C)	30 年度評価	
		担当課 評価	避難所 (公共施設) の公衆無線LAN整備がほぼ終了したので、カントリービレッジへの整備を検討した結果、公衆無線LAN整備事業ではなく通常のインターネット環境の構築事業を実施する予定。 公衆無線LANが利用できる施設をPRし、利用者を増やしたい。
	(A) 改善	令和元年度における取り組みなど	
		公衆無線LANが利用できる施設をPRし、利用者を増やしたい。	
	委員会意見	評価等に対する意見	
		委員会 評価	総合戦略のKPI達成に有効であった。
		B	

- A：目標以上に進捗しており、このまま継続して事業を推進する。
- B：ほぼ目標どおりに進捗しており、継続して事業を推進する。
- C：目標をやや下回っており、要因の分析を要する。
- D：目標を大きく下回っており、要因の分析と目標値の見直しを要する。
- E：目標値または事業自体の抜本的見直しを要する。

泉崎村まち・ひと・しごと創生総合戦略 PDCAサイクル 進捗管理シート

平成 30 年度分		担当課	事業課産業係
基本目標	3 ひとの流れをつくる		
施策の枠組み	(2) 観光振興による人の流れの促進		
具体的施策	②観光地の再生		
事業名	観光モデルコースの策定事業		
事業概要	最終予算額	0千円	決算額 0千円
	村のシンボルである烏峠の自然を活かした遊歩道や、村内幹線道路の桜並木の維持・整備を図るとともに、こうした観光資源をつないだ回遊型の観光モデルコースを策定します。		

計画 (P) ↓ 実施 (D)	目標事項・進捗状況	目標事項	観光モデルコースの策定						
		KPI	策定済(令和元年度)						
			現状値	27年度	28年度	29年度	30年度	R1年度	備考
		数値	—	未策定	未策定	未策定	未策定		
		達成率	—	0%	0%	0%	0%		
		目標事項							
		KPI							
			現状値	27年度	28年度	29年度	30年度	R1年度	備考
		数値							
		達成率							

平成 30 年度	評価 (C)	30年度評価	
		担当課 評価	パークゴルフ場をオープンしたことに伴い、観光PRを兼ねたホームページの作成を実施。
		<b>B</b>	その他として、県南地方の観光PRパンフレット等(しらかわぐるる・しらかわ周遊パスポート・魅力発見バスツアー)により、泉崎村の観光及びレジャー施設を掲載することによりPR活動を行った。
	改善 (A)	令和元年度における取り組みなど	
		ホームページに最新の情報を掲載する。 また、県南地方の情報パンフレット等に泉崎村の旬の情報を掲載する。	
	委員会意見	評価等に対する意見	
委員会 評価		総合戦略のKPI達成に有効であった。	
	<b>B</b>		

- A: 目標以上に進捗しており、このまま継続して事業を推進する。
- B: ほぼ目標どおりに進捗しており、継続して事業を推進する。
- C: 目標をやや下回っており、要因の分析を要する。
- D: 目標を大きく下回っており、要因の分析と目標値の見直しを要する。
- E: 目標値または事業自体の抜本的見直しを要する。

泉崎村まち・ひと・しごと創生総合戦略 PDCAサイクル 進捗管理シート

平成 30 年度分		担当課	事業課産業係	
基本目標	3 ひとの流れをつくる			
施策の枠組み	(3) 観光・交流の基盤となるスポーツ・文化の振興			
具体的施策	①スポーツによる地域振興			
事業名	スポーツ合宿の誘致促進事業			
事業概要	最終予算額	0千円	決算額	0千円
	豊富なスポーツ施設や村への首都圏等からの交通利便性を活かし、スポーツ合宿の誘致を推進する。			

計画 (P) ↓ 実施 (D)	目標事項・進捗状況	目標事項	スポーツ合宿の誘致数						
		KPI	150 (令和元年度)						
		数 値	現状値	27年度	28年度	29年度	30年度	R1年度	備考
			—	119	125	113	142		
		達成率	—	79%	83%	75%	95%		
		目標事項							
		KPI							
		数 値	現状値	27年度	28年度	29年度	30年度	R1年度	備考
		達成率							

平成 30 年度	評価 (C)	30年度評価	
		担当課 評価	指定管理制度にて村より委託している泉崎カントリーヴィレッジにおいて体育施設とカントリーヴィレッジの利便性をアピールする営業活動を実施している。首都圏の大手旅行業者への営業、県内宿泊施設で組織する団体において教育旅行合宿キャラバン等に参加し隣県の中学校、高校、大学にスポーツ合宿誘致活動を積極的に行っている。
	改善 (A)	令和元年度における取り組みなど	
		継続して事業を実施する。	
	委員会意見	評価等に対する意見	
		委員会 評価	総合戦略の KPI 達成に有効であった。
		<b>B</b>	

- A：目標以上に進捗しており、このまま継続して事業を推進する。
- B：ほぼ目標どおりに進捗しており、継続して事業を推進する。
- C：目標をやや下回っており、要因の分析を要する。
- D：目標を大きく下回っており、要因の分析と目標値の見直しを要する。
- E：目標値または事業自体の抜本的見直しを要する。

泉崎村まち・ひと・しごと創生総合戦略 PDCAサイクル 進捗管理シート

平成 30 年度分	担当課	教育課生涯学習係
基本目標	3 ひとの流れをつくる	
施策の枠組み	(3) 観光・交流の基盤となるスポーツ・文化の振興	
具体的施策	①スポーツによる地域振興	
事業名	指導者及びスポーツ推進員の育成事業	
事業概要	最終予算額 148 千円	決算額 83 千円
	スポーツ推進委員や指導者が各スポーツ競技の指導を行いながら村の大会や駅伝大会中継所のサポートを行う。 又、県スポーツ推進委員研究大会や西白河地方実技研修会講演会に参加し知識向上を図る。	

計画 (P) ↓ 実施 (D)	目標事項・進捗状況	目標事項	スポーツ推進員育成数					
		KPI	15 人 (令和元年度)					
		現状値	27 年度	28 年度	29 年度	30 年度	R1 年度	備考
		数 値	—	11 人	11 人	11 人	11 人	
		達成率	—	73%	73%	73%	73%	
		目標事項						
		KPI						
		現状値	27 年度	28 年度	29 年度	30 年度	R1 年度	備考
		数 値						
		達成率						

平成 30 年度	評価 (C)	30 年度評価	
		担当課 評価	各スポーツ競技の指導と村の大会や駅伝中継所のサポートは概ね役割を果たした。県研究大会や西白河地方技術研修会への参加状況が前年より落ちてしまった。また、新たな委員の創出を果たしたが、離任する委員がいたため増加とならなかった。
	改善 (A)	令和元年度における取り組みなど	
		30 年度に引き続き、委員委嘱を前提として関係諸団体の長へ積極的な呼びかけを行っていきたい。	
	委員会意見	評価等に対する意見	
		委員会 評価	総合戦略の KPI 達成に有効であった。
		C	

- A：目標以上に進捗しており、このまま継続して事業を推進する。
- B：ほぼ目標どおりに進捗しており、継続して事業を推進する。
- C：目標をやや下回っており、要因の分析を要する。
- D：目標を大きく下回っており、要因の分析と目標値の見直しを要する。
- E：目標値または事業自体の抜本的見直しを要する。

泉崎村まち・ひと・しごと創生総合戦略 PDCAサイクル 進捗管理シート

平成 30 年度分	担当課	中央公民館
基本目標	3 ひとの流れをつくる	
施策の枠組み	(3) 観光・交流の基盤となるスポーツ・文化の振興	
具体的施策	②地域の文化財・民俗芸能の保存・継承	
事業名	新たな活動団体の創出事業	
事業概要	最終予算額 50 千円	決算額 50 千円
	伝統文化保存会をはじめとした、地域の文化・芸術活動を支援します。	

計画 (P) ↓ 実施 (D)	目標事項・進捗状況	目標事項	文化活動団体数					
		KPI	8 団体 (R 元年度)					
		現状値	27 年度	28 年度	29 年度	30 年度	R1 年度	備考
		数 値	—	6 団体	6 団体	6 団体	6 団体	
		達成率	—	75%	75%	75%	75%	
		目標事項						
		KPI						
		現状値	27 年度	28 年度	29 年度	30 年度	R1 年度	備考
		数 値						
		達成率						

平成 30 年度	評価 (C)	30 年度評価	
		担当課 評価	新たな活動団体の創出は実施していない。
		D	
	改善 (A)	30 年度における取り組みなど	
		新たな活動団体の創出はないが、「峠節保存会」においては若い世代の新会員も若干名増え、次世代に伝承する活動を行っている。	
	委員会意見	評価等に対する意見	
委員会 評価		総合戦略の KPI 達成に有効でない。	
D			

- A：目標以上に進捗しており、このまま継続して事業を推進する。
- B：ほぼ目標どおりに進捗しており、継続して事業を推進する。
- C：目標をやや下回っており、要因の分析を要する。
- D：目標を大きく下回っており、要因の分析と目標値の見直しを要する。
- E：目標値または事業自体の抜本的見直しを要する。

泉崎村まち・ひと・しごと創生総合戦略 PDCAサイクル 進捗管理シート

平成 30 年度分	担当課	教育課生涯学習係
基本目標	3 ひとの流れをつくる	
施策の枠組み	(3) 観光・交流の基盤となるスポーツ・文化の振興	
具体的施策	②地域の文化財・民俗芸能の保存・継承	
事業名	文化財マップや説明板の設置事業	
事業概要	最終予算額 0千円	決算額 0千円
	文化財マップの作成や説明板を設置することにより、村内の文化財の調査や研究の充実を図ると共に、文化財の保存や活用を推進する。	

計画 (P) ↓ 実施 (D)	目標事項・進捗状況	目標事項	文化財マップ						
		KPI	実施済(令和元年度)						
			現状値	27年度	28年度	29年度	30年度	R1年度	備考
		数値	—	未実施	50%	実施済	実施済		
		達成率	—	0%	50%	100%	100%		
		目標事項							
		KPI							
			現状値	27年度	28年度	29年度	30年度	R1年度	備考
		数値							
		達成率							

平成 30 年度	評価 (C)	30年度評価	
		担当課 評価	文化財ガイドマップを使用し、学校への出前授業における利用や、村外からの団体研修旅行者に配布活用をすることができた。
		A	
	改善 (A)	令和元年度における取り組みなど	
		ガイドブックとガイドマップを併せて、学校での副教材としての活用や文化財見学ツアーなどの生涯学習事業に利用するとともに、文化財案内板を設置してより文化財への経路をわかりやすくする。	
	委員会意見	評価等に対する意見	
委員会 評価		総合戦略の KPI 達成に有効であった。	
	A		

- A：目標以上に進捗しており、このまま継続して事業を推進する。
- B：ほぼ目標どおりに進捗しており、継続して事業を推進する。
- C：目標をやや下回っており、要因の分析を要する。
- D：目標を大きく下回っており、要因の分析と目標値の見直しを要する。
- E：目標値または事業自体の抜本的見直しを要する。

泉崎村まち・ひと・しごと創生総合戦略 PDCAサイクル 進捗管理シート

平成 30 年度分		担当課	教育課生涯学習係
基本目標	4 安心をつくる		
施策の枠組み	(1) 暮らしの安全・安心の確保		
具体的施策	①地域コミュニティの再生と活性化		
事業名	コミュニティ交通の充実事業		
事業概要	最終予算額	2,961 千円	決算額 2,786 千円
	小さな拠点推進のためのコミュニティ交通充実の観点から、ふれあい号のデマンド交通化を行う。		

計画 (P) ↓ 実施 (D)	目標事項・進捗状況	目標事項	ふれあい号の利用者数						
		KPI	2,500人(令和元年度)						
		数 値	現状値	27 年度	28 年度	29 年度	30 年度	R1 年度	備考
			—	2,017 人	2,373 人	2,459 人	2,717		
		達成率	—	80%	95%	98%	109%		
		目標事項							
		KPI							
		数 値	現状値	27 年度	28 年度	29 年度	30 年度	R1 年度	備考
		達成率							

平成 30 年度	評価 (C)	30 年度評価	
		担当課 評 価	29 年度の実績から運行経路の見直しを行ったところ、前年比に比べ利用者が 1 割増となった。買い物号の利用が定着してきており前年比 25%増となった。
	改善 (A)	令和元年度における取り組みなど	
		H30 年度に見直した運行経路を引き継ぎ、定着化を図る。 買い物号の利用周知を徹底する。	
	委員会意見	評価等に対する意見	
		委員会 評 価	総合戦略の KPI 達成に有効であった。
	A		

- A：目標以上に進捗しており、このまま継続して事業を推進する。
- B：ほぼ目標どおりに進捗しており、継続して事業を推進する。
- C：目標をやや下回っており、要因の分析を要する。
- D：目標を大きく下回っており、要因の分析と目標値の見直しを要する。
- E：目標値または事業自体の抜本的見直しを要する。

泉崎村まち・ひと・しごと創生総合戦略 PDCAサイクル 進捗管理シート

平成 30 年度分		担当課	中央公民館
基本目標	4 安心をつくる		
施策の枠組み	(1) 暮らしの安全・安心の確保		
具体的施策	①地域コミュニティの再生と活性化		
事業名	世代間交流事業の推進・実施事業		
事業概要	最終予算額	50 千円	決算額 50 千円
	世代を超えた異年齢での体験活動を通して、互いに人との関わり方を学ぶとともに、協調性・尊重性・思いやりの気持ちを育む事業を推進します。		

計画 (P) ↓ 実施 (D)	目標事項・進捗状況	目標事項	世代間交流事業数						
		KPI	5 事業 (令和元年度)						
		数 値	現状値	27 年度	28 年度	29 年度	30 年度	R1 年度	備考
			—	3 事業	4 事業	4 事業	4 事業		
		達成率	—	60%	80%	80%	80%		
		目標事項							
		KPI							
		数 値	現状値	27 年度	28 年度	29 年度	30 年度	R1 年度	備考
		達成率							

平成 30 年度	評価 (C)	30 年度評価	
		担当課 評価	ボランティア連絡協議会会員らが第一小学校『泉っ子まつり』と第二小学校『交流昔の遊び集会』、幼稚園行事の『団子さし』、烏峠の自然を守る会による『自然観察会』などの体験活動を通して、世代間交流を積極的に行うことができた。
	改善 (A)	令和元年度における取り組みなど	
		人と人との関わり方や事業数については目標を達成するものであったので、今後も意欲的に取り組んでいきたい。 内容についてはここ数年同様のものなので、変化を持たせた活動内容を各学校と協議していく必要がある。	
	委員会意見	評価等に対する意見	
		委員会 評価	総合戦略の KPI 達成に有効であった。
		B	

- A：目標以上に進捗しており、このまま継続して事業を推進する。
- B：ほぼ目標どおりに進捗しており、継続して事業を推進する。
- C：目標をやや下回っており、要因の分析を要する。
- D：目標を大きく下回っており、要因の分析と目標値の見直しを要する。
- E：目標値または事業自体の抜本的見直しを要する。

泉崎村まち・ひと・しごと創生総合戦略 PDCAサイクル 進捗管理シート

平成 30 年度分		担当課	事業課産業係
基本目標	4 安心をつくる		
施策の枠組み	(1) 暮らしの安全・安心の確保		
具体的施策	②空き家等対策の推進		
事業名	空き家対策事業		
事業概要	最終予算額	0千円	決算額 0千円
	空き家物件の状況を調査・把握し、居住可能な物件の空き家バンクへの登録と、インターネットを介した情報提供により、移住希望者等とのマッチングを図ります。また、倒壊等の危険性のある家屋の所有者に対して、今後の利用予定がない場合の撤去を促します。		

計画 (P) ↓ 実施 (D)	目標事項・進捗状況	目標事項	空き家調査の実施					
		KPI	実施済 (令和元年度)					
		現状値	27年度	28年度	29年度	30年度	R1年度	備考
		数値	—	実施済	実施済	実施済	実施済	
		達成率	—	100%	100%	100%	100%	
		目標事項	空き家バンク登録物件数					
		KPI	10件 (令和元年度)					
		現状値	27年度	28年度	29年度	30年度	R1年度	備考
		数値		0件	0件	0件	0件	
		達成率		0%	0%	0%	0%	

平成 30 年度	評価 (C)	30年度評価	
		担当課 評価	平成 27 年度に空き家実態調査は実施済みとなっているが、空き家バンク等の利活用方法については現在検討中となっております。
		C	
	改善 (A)	令和元年度における取り組みなど	
		空き家対策は、空き家の持ち主及び地域住民との話し合いの場も必要とされる事から、空き家対策等に積極的に取り組んでいる他市町村の事例を参考にしながら、対応したいと考える。	
		評価等に対する意見	
委員会 意見	委員会 評価	総合戦略の KPI 達成に有効であった。	
	C		

- A：目標以上に進捗しており、このまま継続して事業を推進する。
- B：ほぼ目標どおりに進捗しており、継続して事業を推進する。
- C：目標をやや下回っており、要因の分析を要する。
- D：目標を大きく下回っており、要因の分析と目標値の見直しを要する。
- E：目標値または事業自体の抜本的見直しを要する。

泉崎村まち・ひと・しごと創生総合戦略 PDCAサイクル 進捗管理シート

平成 30 年度分		担当課	住民福祉課住民係
基本目標	4 安心をつくる		
施策の枠組み	(1) 暮らしの安全・安心の確保		
具体的施策	③地域防犯・防災力の強化		
事業名	消防団の充実事業		
事業概要	最終予算額	68,647 千円	決算額 65,892 千円
	泉崎村消防団は、現在6分団に分かれている。このため、幹部人数も多く全ての幹部団員に連絡を取るだけでもかなりの時間を要している。このことから、2分団制とすることにより、指揮系統を単純化・短縮化し、幹部経験や知識の不均衡をなくす。また、現在も組織化されている機能別消防団の更なる充実を図り、就労形態の変化等による出動不可団員の補完に努めると共に、国が推進する女性消防団員及び学生消防団員の新規確保に努める。		

計画 (P) ↓ 実施 (D)	目標事項・進捗状況	目標事項	消防団員数						
		KPI	241人 (令和元年度)						
		数値	現状値	27年度	28年度	29年度	30年度	R1年度	備考
			—	241人	241人	241人	241人		
		達成率	—	100%	100%	100%	100%		
	目標事項・進捗状況	目標事項							
		KPI							
		数値	現状値	27年度	28年度	29年度	30年度	R1年度	備考
		達成率							

平成 30 年度	評価 (C)	30年度評価	
		担当課 評価	2分団制への意向について、幹部会においては概ね浸透が図られていると思われるが、地区における議論について不十分な部分が見受けられることから、今後十分な協議を要すると思われる。また、女性消防団員や学生消防団員の新規確保については、対象となる人員が不足していることもあり今後検討していかなければならない。
	(A) 改善	令和元年度における取り組みなど	
		引き続き2分団制移行についての取り組みを進め、消防団員の連携や意識向上を図る。また、消防車両の購入や消防屯所改修など設備や施設の強化、充実を目標に取り組む。	
	委員会意見	評価等に対する意見	
委員会 評価		総合戦略のKPI達成に有効であった。	
		B	

- A：目標以上に進捗しており、このまま継続して事業を推進する。
- B：ほぼ目標どおりに進捗しており、継続して事業を推進する。
- C：目標をやや下回っており、要因の分析を要する。
- D：目標を大きく下回っており、要因の分析と目標値の見直しを要する。
- E：目標値または事業自体の抜本的見直しを要する。

泉崎村まち・ひと・しごと創生総合戦略 PDCAサイクル 進捗管理シート

平成 30 年度分	担当課	住民福祉課住民係
基本目標	4 安心をつくる	
施策の枠組み	(1) 暮らしの安全・安心の確保	
具体的施策	③地域防犯・防災力の強化	
事業名	災害時応援協定の締結事業	
事業概要	最終予算額 30千円	決算額 30千円
	村では現在、災害時応援協定として、南会津郡の4町村及び西白河郡の4町村と協定を締結しているほか、「LPガス等の供給協力に関する協定」を一般社団法人福島県LPガス協会白河支部と、「生活物資の確保及び供給に関する協定」を「白河青果株式会社・丸水白河魚市場株式会社」及び「夢みなみ農協」との間に結んでいる。また、長野県下條村との間に災害時応援協定を締結している。今後、住民の安全・安心を確保するため、協定の締結先を模索する。	

計画 (P) ↓ 実施 (D)	目標事項・進捗状況	目標事項	災害時応援協定の締結数					
		KPI	4 (令和元年度)					
		現状値	27年度	28年度	29年度	30年度	R1年度	備考
		数値	—	3	4	5	5	
		達成率	—	75%	100%	125%	125%	
	目標事項・進捗状況	目標事項						
		KPI						
		現状値	27年度	28年度	29年度	30年度	R1年度	備考
		数値						
		達成率						

平成 30 年度	評価 (C)	令和元年度評価	新たな協定の締結には至らなかったが、新たな取り組みを模索し継続して事業を推進する。  <b>A</b>
		担当課 評価	
	(A) 改善	令和元年度における取り組みなど	既に締結している協定について、見直し等の確認作業を実施していきたい。 また、更なる住民の安全安心のため、新たな協定締結について模索していきたい。
		評価等に対する意見	
	委員会意見	委員会 評価	総合戦略のKPI達成に有効であった。  <b>A</b>

- A：目標以上に進捗しており、このまま継続して事業を推進する。  
 B：ほぼ目標どおりに進捗しており、継続して事業を推進する。  
 C：目標をやや下回っており、要因の分析を要する。  
 D：目標を大きく下回っており、要因の分析と目標値の見直しを要する。  
 E：目標値または事業自体の抜本的見直しを要する。

泉崎村まち・ひと・しごと創生総合戦略 PDCAサイクル 進捗管理シート

平成 30 年度分		担当課	総務課企画財政係	
基本目標	4 安心をつくる			
施策の枠組み	(1) 暮らしの安全・安心の確保			
具体的施策	④公共施設等の戦略的な維持管理			
事業名	村の情報基幹システムのクラウド化			
事業概要	最終予算額	0 円	決算額	0 円
	しらかわ地域市町村クラウド化検討グループで基幹系システムクラウド化（共同利用）に向けた検討を行い、平成 30 年度を目標に移行する。 各市町村のシステム更新時期を合わせ、平成 35 年度に移行予定となった。			

計画 (P) ↓ 実施 (D)	目標事項・進捗状況	目標事項	クラウド化の実施						
		K P I	実施済（令和元年度）						
			現状値	27 年度	28 年度	29 年度	30 年度	R1 年度	備考
		数 値	—	未実施	未実施	未実施	未実施		
		達成率	—	0 %	0 %	0 %	0 %		
		目標事項							
		K P I							
			現状値	27 年度	28 年度	29 年度	30 年度	R1 年度	備考
		数 値							
		達成率							

平成 30 年度	評価 (C)	30 年度評価	
		担当課 評 価	白河市が中心となり、しらかわ地域市町村クラウド化検討グループに関する打合せが、今年度は 5 月に開催された。
		<b>B</b>	泉崎村では移行に参加する意向であるが、しらかわ地域市町村クラウド化検討グループで 35 年度に移行予定となった。
	改善 (A)	令和元年度における取り組みなど	
		引き続き関係市町村との協議に参加していく。 各課に対しクラウド化を前提としたシステムの契約更新を行うよう依頼する。	
	委員会 意見	評価等に対する意見	
委員会 評 価		総合戦略の K P I 達成に有効であった。	
<b>B</b>			

- A：目標以上に進捗しており、このまま継続して事業を推進する。
- B：ほぼ目標どおりに進捗しており、継続して事業を推進する。
- C：目標をやや下回っており、要因の分析を要する。
- D：目標を大きく下回っており、要因の分析と目標値の見直しを要する。
- E：目標値または事業自体の抜本的見直しを要する。

泉崎村まち・ひと・しごと創生総合戦略 PDCAサイクル 進捗管理シート

平成 30 年度分	担当課	総務課企画財政係
基本目標	4 安心をつくる	
施策の枠組み	(1) 暮らしの安全・安心の確保	
具体的施策	④公共施設等の戦略的な維持管理	
事業名	公共施設実態調査の実施	
事業概要	最終予算額 0円	決算額 0円
	<p>既存公共施設について、必要性・住民アクセス・有効土地利用等の観点から統廃合や再配置を検討するとともに、計画的な補修・修繕を行うことにより、各施設の維持管理に努めます。</p> <p>全ての公共施設の実態調査を行うことにより、今後、必要となる更新費用の算定を行なう。</p>	

計画 (P) ↓ 実施 (D)	目標事項・進捗状況	目標事項	公共施設実態調査の実施					
		K P I	実施済 (令和元年度)					
		現状値	27 年度	28 年度	29 年度	30 年度	R1 年度	備考
		数 値	—	未実施	未実施	未実施	未実施	
		達成率	—	0 %	0 %	0 %	0 %	
		目標事項						
		K P I						
		現状値	27 年度	28 年度	29 年度	30 年度	R1 年度	備考
		数 値						
		達成率						

平成 30 年度	評価 (C)	30 年度評価	
		担当課 評価	実施していません。
		C	
	(A) 改善	令和元年度における取り組みなど	
		今年度中に実施できるよう準備していく。	
	委員会意見	評価等に対する意見	
委員会 評価		総合戦略の K P I 達成に有効であった。	
C			

- A：目標以上に進捗しており、このまま継続して事業を推進する。
- B：ほぼ目標どおりに進捗しており、継続して事業を推進する。
- C：目標をやや下回っており、要因の分析を要する。
- D：目標を大きく下回っており、要因の分析と目標値の見直しを要する。
- E：目標値または事業自体の抜本的見直しを要する。

泉崎村まち・ひと・しごと創生総合戦略 PDCAサイクル 進捗管理シート

平成 30 年度分		担当課	住民福祉課福祉係
基本目標	4 安心をつくる		
施策の枠組み	(2) 医療と福祉の充実・連携		
具体的施策	①介護離職ゼロの推進		
事業名	地域密着型介護老人福祉施設入所者生活介護への優遇措置制度の検討		
事業概要	最終予算額	0千円	決算額 0千円
	家族介護者の急な仕事の都合等に対しても柔軟に対応可能な、地域密着型特別養護老人ホームを整備する事業所に対して、多様な優遇措置を検討し、介護を理由とした離職ゼロを目指します。また、企業・事業者に向けて、介護を要する家族等を持つ就業者のワーク・ライフ・バランス啓発の講習会を実施します。		

計画 (P) ↓ 実施 (D)	目標事項・進捗状況	目標事項	地域密着型特別養護老人ホーム数					
		KPI	1 (令和元年度)					
		現状値	27年度	28年度	29年度	30年度	R1年度	備考
		数値	—	0	0	1	1	
		達成率	—	0%	0%	100%	100%	
		目標事項						
		KPI						
		現状値	27年度	28年度	29年度	30年度	R1年度	備考
		数値						
		達成率						

平成 30 年度	評価 (C)	30年度評価	
		担当課 評価	地域密着型特養入所者は基本的に満床で離職ゼロを目指すため施設に入所させる対応は施設では行っていないが、空きベッドが出るタイミングを利用した短期入所（ショートステイ）で対応できている。講演会などは実施できていない。
	改善 (A)	令和元年度における取り組みなど	
		どのような優遇措置がよいか施設との協議を行いながら今後検討したい。	
	委員会 意見	評価等に対する意見	
		委員会 評価	総合戦略の KPI 達成に有効とは言えない。
D			

- A：目標以上に進捗しており、このまま継続して事業を推進する。
- B：ほぼ目標どおりに進捗しており、継続して事業を推進する。
- C：目標をやや下回っており、要因の分析を要する。
- D：目標を大きく下回っており、要因の分析と目標値の見直しを要する。
- E：目標値または事業自体の抜本的見直しを要する。

泉崎村まち・ひと・しごと創生総合戦略 PDCAサイクル 進捗管理シート

平成 30 年度分		担当課	住民福祉課福祉係	
基本目標	4 安心をつくる			
施策の枠組み	(2) 医療と福祉の充実・連携			
具体的施策	②地域医療の充実			
事業名	救急医療体制の維持及び充実			
事業概要	最終予算額	0 千円	決算額	0 千円
	医療の質の向上とともに、広域的医療機関との役割分担や連携強化に向けた支援を行い、子どもから高齢者までを対象とした、幅広い医療の充実に努めます。			

計画 (P) ↓ 実施 (D)	目標事項・進捗状況	目標事項	広域的医療機関との連携事業数						
		KPI	1 事業 (令和元年度)						
		数 値	現状値	27 年度	28 年度	29 年度	30 年度	R1 年度	備考
			—	0 事業	0 事業	0 事業	0 事業		
		達成率	—	0 %	0 %	0 %	0 %		
		目標事項							
		KPI							
		数 値	現状値	27 年度	28 年度	29 年度	30 年度	R1 年度	備考
		達成率							

平成 30 年度	評価 (C)	30 年度評価	
		担当課 評 価	白河地方自治体が広域で連携し、救急医療体制の維持・充実を図るため 医師の確保支援に係る支援負担金や周産期医療体制等確保のための負 担金、准看護学院へ財政援助を行っています。
		E	
	(A) 改善	令和元年度における取り組みなど	
		今後も継続して広域市町村が連携し、体制の維持充実を図っていきます。	
	委員会 意見	評価等に対する意見	
委員会 評 価		総合戦略の KPI 達成に有効とは言えない。	
E			

- A：目標以上に進捗しており、このまま継続して事業を推進する。
- B：ほぼ目標どおりに進捗しており、継続して事業を推進する。
- C：目標をやや下回っており、要因の分析を要する。
- D：目標を大きく下回っており、要因の分析と目標値の見直しを要する。
- E：目標値または事業自体の抜本的見直しを要する。

泉崎村まち・ひと・しごと創生総合戦略 PDCAサイクル 進捗管理シート

平成 30 年度分		担当課	中央公民館
基本目標	4 安心をつくる		
施策の枠組み	(2) 医療と福祉の充実・連携		
具体的施策	③地域における福祉の支え合い活動の促進		
事業名	泉崎村ボランティア連絡協議会の機能強化事業		
事業概要	最終予算額	50 千円	決算額 50 千円
	高齢化が進む中、寝たきりや一人暮らしの方の数が年々増加傾向にある。 そこで、ボランティア団体及び個人ボランティアの相互連携を図りながら見守り・訪問活動・地域の人等との交流の場づくりなどを提供したい。		

計画 (P) ↓ 実施 (D)	目標事項・進捗状況	目標事項	ボランティア団体数						
		KPI	10 団体 (令和元年度)						
		数 値	現状値	27 年度	28 年度	29 年度	30 年度	R1 年度	備考
			—	8 団体	8 団体	9 団体	7 団体		
		達成率	—	80%	80%	90%	70%		
		目標事項							
		KPI							
		数 値	現状値	27 年度	28 年度	29 年度	30 年度	R1 年度	備考
		達成率							

平成 30 年度	評価 (C)	30 年度評価	
		担当課 評価	各団体の会員も高齢化が進み、平成 30 年度は協議会から 2 つの団体が脱会した。 福祉活動を展開していくには難しい状況にある。
	(A) 改善	令和元年度における取り組みなど	
		地域の人との交流の場づくりなど、実施可能な範囲での取り組み方を検討していきたい。	
	委員会意見	評価等に対する意見	
		委員会 評価	総合戦略の KPI 達成に有効とは言えない。
	B		

- A：目標以上に進捗しており、このまま継続して事業を推進する。
- B：ほぼ目標どおりに進捗しており、継続して事業を推進する。
- C：目標をやや下回っており、要因の分析を要する。
- D：目標を大きく下回っており、要因の分析と目標値の見直しを要する。
- E：目標値または事業自体の抜本的見直しを要する。

泉崎村まち・ひと・しごと創生総合戦略 PDCAサイクル 進捗管理シート

平成 30 年度分	担当課	教育課 学校教育係
基本目標	4 安心をつくる	
施策の枠組み	(2) 医療と福祉の充実・連携	
具体的施策	③地域における福祉の支え合い活動の促進	
事業名	ボランティアリーダーの養成・研修事業の実施	
事業概要	最終予算額	0千円
	決算額	0千円
ボランティア活動への住民の参加意欲醸成のため、広報・啓発や情報提供に努めます。 また、ボランティア活動の推進体制を整備するとともに、人材の育成等、全体的な取り組みを強化します。		

計画 (P) ↓ 実施 (D)	目標事項・進捗状況	目標事項	ボランティアリーダー育成数						
		KPI	2人(令和元年度)						
		数値	現状値	27年度	28年度	29年度	30年度	R1年度	備考
			—	0人	0人	0人	0人		
		達成率	—	0%	0%	0%	0%		
		目標事項							
		KPI							
		数値	現状値	27年度	28年度	29年度	30年度	R1年度	備考
		達成率							

平成 30 年度	評価 (C)	30年度評価	(1)子ども達の登校時の見守りとして、『地域スクラム応援隊』を結成し、2学期より活動を開始した。現在は一小二小学区計34名が登録し、朝の見守り活動を実施している。 (2)次期学習指導要領において「地域とともにある学校」を目指すとの方針を受け、『学校支援ボランティア』を募集した。19名が登録し、野菜づくり(生活科)や読み聞かせ等で教育活動に協力をしていただいている。
		担当課 評価	
	改善 (A)	令和元年度における取り組みなど	
		(1)発足3年目を迎え、早朝見守りボランティアとして活動が安定してきているものの、学校支援ボランティアと連携を図れるよう、組織体制の強化をすすめる。 (2)泉崎村ボランティア連絡協議会、地域スクラム応援隊、学校支援ボランティアなど、これらの団体が横の連携を図る仕組みやボランティアリーダーの養成・研修事業の実施を視野に入れた事業を展開していく。	
	委員会意見	評価等に対する意見	
		委員会 評価	総合戦略のKPI達成に有効であった。
		<b>B</b>	

- A: 目標以上に進捗しており、このまま継続して事業を推進する。
- B: ほぼ目標どおりに進捗しており、継続して事業を推進する。
- C: 目標をやや下回っており、要因の分析を要する。
- D: 目標を大きく下回っており、要因の分析と目標値の見直しを要する。
- E: 目標値または事業自体の抜本的見直しを要する。

泉崎村まち・ひと・しごと創生総合戦略 PDCAサイクル 進捗管理シート

平成 30 年度分		担当課	総務課企画財政係
基本目標	5 まちをつなぐ		
施策の枠組み	(1) 地域間連携の推進		
具体的施策	① しらかわ地域定住自立圏構想の推進		
事業名	しらかわ地域定住自立圏形成協定		
事業概要	最終予算額	76,297 千円	決算額 69,960 千円
	白河市と生活圏や経済圏をともにする、泉崎村を含めた 9 市町村長参加による「しらかわ地域定住自立圏推進協議会」のしらかわ地域定住自立圏共生ビジョンの推進に努めます。		

計画 (P) ↓ 実施 (D)	目標事項・進捗状況	目標事項	しらかわ地域定住自立圏形成協定に基づき推進する具体的取り組みの推進					
		KPI	41 事業 (令和元年度)					
		現状値	27 年度	28 年度	29 年度	30 年度	R1 年度	備考
		数 値	—	16 事業	12 事業	13 事業	17 事業	
		達成率	—	39%	29%	32%	41%	
		目標事項						
		KPI						
		現状値	27 年度	28 年度	29 年度	30 年度	R1 年度	備考
		数 値						
		達成率						

平成 30 年度	評価 (C)	30 年度評価	
		担当課 評価	しらかわ地域定住自立圏共生ビジョンに掲載している事業で、実施していない事業がある。
		C	
	改善 (A)	令和元年度における取り組みなど	
		しらかわ地域定住自立圏共生ビジョンに掲載している事業は、特別交付税の措置があるため、各担当課に事業を実施するよう要請する。	
	委員会意見	評価等に対する意見	
委員会 評価		総合戦略の KPI 達成に有効であった。	
C			

- A：目標以上に進捗しており、このまま継続して事業を推進する。
- B：ほぼ目標どおりに進捗しており、継続して事業を推進する。
- C：目標をやや下回っており、要因の分析を要する。
- D：目標を大きく下回っており、要因の分析と目標値の見直しを要する。
- E：目標値または事業自体の抜本的見直しを要する。